

增補考古畫譜

卷九



增補考古畫譜卷九

那部

內侍

中右記

十柄

見此

打界

師也

也

見也

三寸四長柄見也左師見十中侍
 寸柄五二本其後青刃打柄右此
 本寸尺六上云龍柄界劍二燒內
 一 等四寸虎此右本也左柄有亡侍
 柄相寸穴尾字白五左柄有亡侍
 以長加但一形以虎寸銚靈條所刀號
 上二也柄有纜下此四雲劍云契太
 一尺劍本在燒上分形樣寬
 柄柄并或損以損丈目纜切治
 無本骨六上不見左也二柄一柄
 銘四不寸二見左也二柄一柄
 文寸見或柄若青龍中央柄分長
 以 鱧尾二柄劍歟殘六柄許許
 上十柄皆以一柄尺長二
 十柄皆以一柄尺長二
 皆以一柄尺長二
 以一柄尺長二
 以燒損

黑川春村原稿
 古川躬行纂輯
 黑川真賴增補



田目有考古畫譜卷九

下裏書云。件靈劍二柄圖。權中將顯實朝臣所持也。彼家相傳之。明經博士允亮所抄。政事要畧百州卷中詳見也。為一本書不在他家。而件節刀沙汰之卷。隨身直廬。與下官共披閱之處。大畧今日所見之。古劍二柄相叶也。尤有興。件書中天德內裡燒亡時。陰陽師晴明奉勅命作瑩之由所見也。而安倍泰長為彼末葉。此靈劍之圖。依命所獻殿下也。彼中將圖與泰長圖皆以相叶。是有指南也。長德三年五月廿四日。藏人信經私記云。遣召主計助安倍晴明。召問宜陽殿御劍等事。申云。件御劍卅四柄也。去天德內裡燒亡之日。皆悉燒損。晴明為天文得業生之時。奉宣旨進勘文。所令作之。卅四柄之中。二腰名靈劍。一腰破敵。一腰守護。但件劍有鏤之儀。次并名。又同鏤十二

神日月五星之躡也。而燒損之後。不見其文。仍所獻勘文也。御劍樣乃木形也。件破敵。是遣大將軍之時。所給節刀也。一腰是名守護候御所是也。去天德以後。度度燒亡。後未被作件二腰。本是百濟國所獻云。云今日所遣劍身六柄之中。靈二腰有之。實件靈者。國家大寶也。必可被作儲者。天德奉勅。以備前國撰獻。鍛治曰根安生。令燒其實。高雄山也者。七八月庚申日。必可作此劍者。其故仰作酒。令史安倍宗生等也。今年八月廿六日。是庚申日也。然而已為九月節。又日次不宜。明年七八月庚申日。可被始作狀。件記後日。從治部卿通俊。許借得之。所記置也。建曆御記云。大刀匡房記顯實曰。鉞劍三尺。或二尺。搃十。其中一劍背有銘。北斗左青龍。右白虎。其外不

見是自百濟所被渡二劍之一狀。日月護身之劍。三公鬪戰之劍狀。

泣不動縁起一名證空繪詞 二卷

好古小録云。二卷畫光茂。此卷中安倍晴明付喪神ヲ祭リテ。僧智空ノ病ヲ證空ニ移ノ。智空病治スル事アリ。淨華院所持。泣不動縁起琢磨所持ト云。余未觀之。

國朝書目云。證空畫詞傳刑部大輔光茂 二卷

補本朝画圖品目云。泣不動縁起二卷画光茂

摺印補遺云。三井寺泣不動卷

土佐系圖云。光茂右近將監從四位下画僧證空繪詞傳二卷

有光成跋 春村曰。長明發心集卷五證空師の命にかこ

る事此條云。かくかの本尊は信ふまて後白川院よれましましけり。おやうちう院のなき不動と申へこまあり御目よるなみぶをあらくたるか。ちげみさやうに見せ給へりけるとぞ云云と見せたり。又曾我物語卷七みもくわく見せたり。

補真頼曰。志ノ部證空繪詞の條見ありをべし

補業平雙紙繪 一卷

補狩野謙柄藏繪隆信朝臣詞書西行法師

補真頼曰。伊勢物語の意よてあらうと書をる春画あり筆意め傳ふ

直幹申文繪詞

類聚目錄云。光顯筆

倭錦云土佐光顯直幹申文草子詞慶運法印

補古画目錄云直幹申文繪一卷伊豫藏摹本
立放館ニアリ

十訓抄十卷第云天曆の御宇橘直幹が民部大輔を望む申文をバ自書て小野道風ニ清書させけり帝御覽ぜられケるよ依人異事似偏頗代天而授官誠懸運命など述懐の詞をかきごせるによてて御きそくあしかりあり人是をたそれたもふほどふそのち内裡焼亡俄中の院ニ行幸あり代々此御渡物御倚子時簡玄象鈴鹿已下もちまるでたるを御覽して直幹が申文ハとり出したりやと御尋ありけれむ時の人いみとき事ニぞまうしける

補元幹曰梅窓筆記ハ橘直幹草紙トいふもの
是も也

躬行曰橘直幹民部大輔の闕を兼任せむと請
状載せて本朝文粹卷六ハあり不レ贅干此

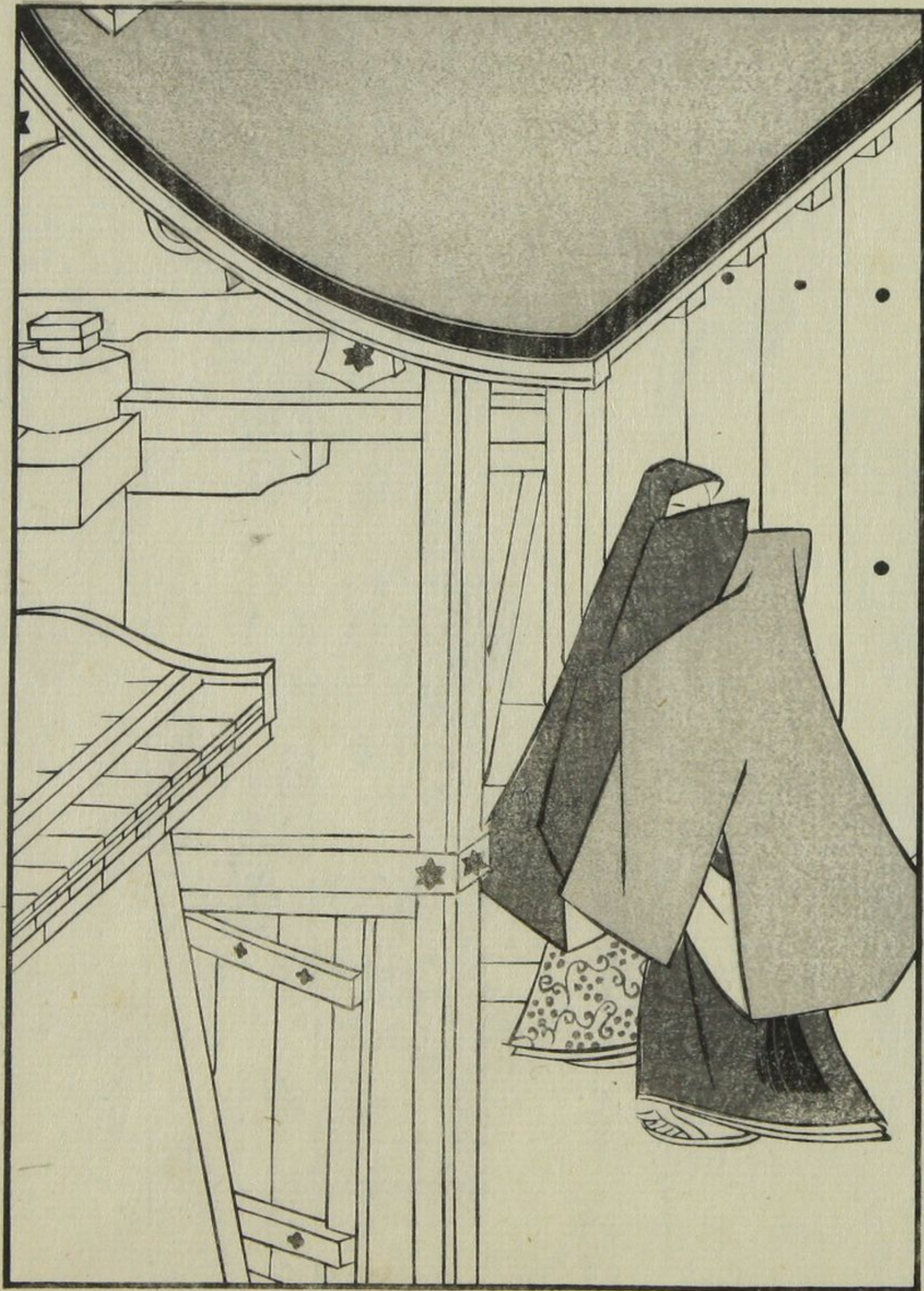
奈與竹物語一名鳴門中將物語 一卷
好古小録云那与竹草子一卷画者姓名不傳摸本
異同アリ子ガ所藏古本ニ誤寫ナシ
畫圖品類云繪々所預隆能詞正二位為家卿讚州白峯
藏

補古画目錄云乃竹物語白峯藏

補本朝画圖品目云奈与竹草紙一名鳴門中將物
語讚州白峯寺什画繪所預隆能詞正二位為家卿
或人云やまと錦ハ行廣ト今傳ふ所ハ二

或云後深草帝御寄
附可疑

白月有方...



奈與竹物語
摹本在博物館



本あり一本ハ巻首缺た

躬行曰此物語ハ著聞集八巻後嵯峨帝大井の山莊の御鞠の夜參りありける何ふ少將此北方をあなたちみさうと給ひてやがてわりなく語らひ給ふ物語也女たりともなふ、あはせんあよ竹の一よふよ此あふのふしをばといふ哥の心みてなよた多の御返事聞えさせたまはなよけ物語とも又妻をかからるゝといふ何曾みて鳴門中將物語ともいふあり此詞羣書類從第四百八十二も入るりさて品類ハ此巻詞為家卿繪隆能とあまど為家卿ハ後宇多帝の建治元年薨せられより隆能ハ左衛門佐清綱男堀川鳥羽の朝

の人ふしてかの後嵯峨の御代よるハ百とせふあまりて古るるべけとハ事跡も書画ハ時代も餘りハ相違さ

補真頼曰弱竹物語一卷摸本博物館ふあり巻尾ハ法橋豊泉源孝之記して曰後深草天皇讚岐綾松山白峯寺ハ崇徳天皇ハ廟中ハ寄附たる所の由を志るし且この巻白峯寺ふあるよを志るせ

同

一卷

補古画目録云近世鳴門中將物語一卷画如慶詞飛鳥井雅章卿

倭錦云住吉如慶奈世竹物語詞雅章卿

補真頼曰摸本博物館ふあり

補同

補 倭錦云、土佐行廣奈與竹物語

補 古画目錄云、なよ竹物語繪京都土佐守家繪本

補 真頼曰、予いまぶこきを見む古本の摸本なるべき歟

無名物語 二卷

書畫飛鳥井大納言雅親卿女一位局一筆、墨坂堀家藏

古物語類字抄云、此ものがよとへ、時の大臣は姫君、うた、杯の夢み、誰ともあられぬ上臈ふたび、びあひ給ひて、それ人のあられぬを慕ひ、石山おまう侍て左大將と聞こゆる人の、ねなしもちのゆめ語りせらるゝを、もれかげみもよき、姫君

むねつふれて、瀬田はし小身をなげし、大將此舟みたまけらきて、そゑさうゆるよしの作り物ぶさあり、一位の局は自作自筆此ものならむ、文章繪様も頗殊勝なれと、名目此外題ふけさば、姑く名あしもれがよと名づく

補 内侍所御前圖

補 幕本博物館あま

長歌葦手繪 一卷

好古小録云、一卷畫光正、葦手ノ一種ナリ

土佐系圖云、光正正中年中人從五位下畫長歌葦手

倭錦云、土佐光正源氏葦手書草子

画圖品目云、光信筆

那智山水屏風

補 燕石雜誌卷九

倭錦云、土佐經隆紀州那智山水中屏風

補 真頼曰、倭錦小那智山水中屏風と見ゆり

南川琵琶

撥面画流水槽華欄尾州家藏

浪速古圖 五枚

補 本朝画圖品目云、浪速古圖五枚

補 真頼曰、予この模本を藏せり

補 奈須狐狩縁起

補 古畫目錄云、古キ田舎画ナリ那須雲巖寺藏寛政

乙卯春牛込ニテ開帳有之時ニ觀ル

補 奈須野狐狩圖

補 同書云、信州某寺ニアリ圖中三浦介上総介射

術ヲ試ミ騎馬ニテ馬ノ足ニ鞠ヲユヒ付ケカケ

オヒテ鞠ノ片カタヲ射付クル所アリ

補 七草草紙繪

補 燕石雜誌卷四云、七草双紙

補 業平朝臣像

補 本朝画圖品目云、業平朝臣像不退寺付

補 画工便覽卷一云、在原業平、從四位上、右近衛權

中將美濃守行平弟、父母同、長和歌、本朝好色、常好

画圖、和州不退寺自影存

補 集古十種 肖像部 在原業平朝臣像大和國不退寺

藏

補 和州舊跡幽考卷四云、不退寺云云業平朝臣の

みづからかき給ふ遺像あり陽成院の宸翰の贊

曰右近衛權中將在原朝臣業平者平城天皇之孫

和州舊跡幽考卷四

阿保親王之五男也元慶第四曆癸亥廿八日行年五十六卒大あゝの月をもめでとまぞこのつもまバ人の老となるもの

補真頼曰束帶ふて坐像あり筆紙をもてり摹本博物館ふあり

同

一幀

画工便覽云後光明帝好圖畫甚有器趣圖業平之像束帶置冠於右手執筆題御製於上かくもあら姿のさこそ寫るとも月をひろをえしもか、絲を賜中院通純

補

長房卿像

一幀

補摹本博物館ふあり御室粉本と記せり画工不詳

補真頼曰烏帽子直衣を着る座像なり

補

直江兼續父子像

補集古十種

部肖像

直江兼續同息男像高野山龍光院瑜祇塔壁画

補真頼曰兼續ハ束帶ふて息男ハ烏帽子水干を着る共小坐像なり

補

南圓堂壁畫祖師像

山槐記

安元元年九月十一日

云抑南圓堂所奉圖之大師等影消失之間皆塗新壁纒所殘者不塗之令塗圖外云云

補

中院僧正像

一幀

補仁和寺御室藏絹本画工不詳摹本博物館ふあり

補 真賴曰。中院僧正ハある人いとく般若寺の
觀賢な。長者補任小見をた。といへり
補 真賴曰。椅子にかゝ。珠數をもて。頭小上
刺ある頭陀袋を。けり。画上に小傳を記せ
也

補 南山和尚像

補 新編鎌倉志卷三の圓覺寺云。南山自贊画像一幅
贊文如左者箇面背太奇恠矣。你是阿誰。我不知。你
喚作南山。不是不是。鑑公太守。所寫影像。携來求贊
トアリ是崇壽寺ノ開山也。鑑公ハ平高時也
補 古畫類聚目錄云。南山禪師像。此條高時筆。鎌倉
傳宗菴藏

補 真賴曰。摹本博物館小あり紙本ふて半身の

像あり

尔部

補 廿五菩薩像

補 東鑑卷四云文治元年十月十一日庚申御堂佛後壁畫圖終彩色之功所奉圖淨土瑞相并廿五菩薩像也二品監臨給之處圖淨土之所有三日月而此月者以己影隱己影云云今畫樣頗不叶本說之由被仰之間畫工不能改之則削云云

補 二菩薩像

補 畫工便覽卷三云慧日坊者梅尾明惠弟子瑞泉寺色紙形殿之扉畫二菩薩及彌陀尊像

日 課觀音像

名畫拾彙云平政子北條時政之女源賴朝卿室家卿薨後為尼法名如實稱二位尼亦作圖畫鎌倉壽

按元亨釋書日藏寬和元年化

福寺釋迦像以竹構成以紙粘造稱籠年世久遠頗為壞損元祿四年欲修補之拓而看之中有觀音畫像廿許片每紙書日蓋日課所畫也當時狩野常信定為平氏畫詳見大德寺天倫和尚所記今觀其摸本筆法婉暢與書蹟同轍狩野氏之鑒為不誤

補真賴曰く部觀世音菩薩の條見合まべー

如意輪寺八神像

吉野如意輪寺藏王權現謂之試藏王傳龕內所畫

吉野山中八社之神像畫工姓名不傳色紙形傳道

後醍醐天皇後所加宸翰管神影最古雅也贊云風月澄心大道祖火雲宵忿

法

補如來荒神像

補倭錦云巨勢飛驒守惟久如來荒神

補真賴曰如來荒神の像ハ容貌柔和みして六臂なり花瓶の如きも此うへみ坐せり其花瓶のもとみ玉を降らしてあり

補仁王經息災曼陀羅

補弘鏡口說云彼水本ノ隆舜ハ道順僧正ノ中陰ノ間ニ少々ノ聖教又本尊等盜出シテ水本へ被取其後定海僧正ノ初テ圖シ改メ玉み仁王經息災ノ方ダラうモ盜取テ水本ニ被置タリ其ヨリ彼ノ方ダラ水本ニ有之云云

補真賴曰此の曼荼羅の筆者ハ禪那院の珍海なり仁王經增益曼陀羅の條見るべし

補仁王經增益曼陀羅

補同書云仁王經曼荼羅ニ增益息災ノ兩種有之

最初ハ小野僧正仁海仰如照被圖之增益ノ万々
ラ也此經ノ依七福即生之義歟其後定海僧正ノ
御代ニ改彼增益曼々ラヲ被圖息災ノ万々ラニ
是又依經ノ七難即滅義歟此時ハ筆者禪那院珍
海已講也凡小野僧正從最初增益ニ圖シ給ヒケ
ルヲ改之息災ニ被圖事曲事也ト時ノ人々申ケ
リ筆者珍海モ大僧正ノ御意ナル故ニ被書ケレ
氏大ニ无曲事ニ被思ケリ然ル間彼ノ万々ラヲ
書了テ彼紙形ヲ所持ノ往勸修寺ニ寛信法務ニ
被奉見ケレハ法務モ言語同斷口惜事也トテ大
僧正ヲ被難ケリ如此珍海已講ハ醍醐へ歸ラレ
ケリ其夜ノ夢ニ白純淨衣着タル神人共多勢亂
入禪那院散々ニ破坊舎剩珍海ヲ搦メ縛ノ往也

是ハ何事ゾト問ハ神人云我カ流ノ極秘密ノ万
ダヲ等令顯露祖師ヲ難スル事以ノ外清瀧權現
ノ御忿ニヨソテ如此取アツカヘトノ依神勅如
此也一珍海ヲハ神沙河ニオシ漬ニセラレ、
ト覺テ夢サメヌ然ニ珍海汗水ヲ流シテ驚ケリ
然而无幾程病氣ノ心地有テ聽テ逝去也恐歟難
有事也然ノヨリ以來彼ノ息災ノ万々ラ殊勝ノ
事也大僧正不思議人也トテ皆々令閉口也云云
補春村曰真言血脉抄云公鏖號安察法印應永
卅三年五月三日寂年六十五
補二月堂縁起 二卷
補二月堂縁起跋文云維天文五年冬東大寺帥法
印英訓寺領のため美濃國小下向せしに國中心

よりをこけまゝそはくの寺納ありあひい
そぎ歸駕を促し南都ふむるひに寺田とあり
ふ所の怨賊圍繞して荷物ことごとく劫奪せし
るハ則彼一村成敗を加へられ衆議をなし名字
を二月堂にこゑられきまゐるふことし十五年
丙午かの寺田の黎民等咸即起慈心不住し燈明
料あまゝもたせ二月堂會中二月ふまるて申
やう名字をこめられしより疾疫流行し命をう
まなひ身をほろがすもの數をあらばさま數
百の家も亡室逃屋となしてさぶらのふのころ所
五六十年なりあゝなぶらかの御崇のよし漸
愧懺悔しやゐてかの牛王をひるるへし起請文
をかき今よりハ東大寺の外護をいさすきよ

捨邪歸正せしるハ衆中奇異のたもひをな
赦免せられけり神助冥罰末代といへともあら
たなる者乎靈驗奇瑞等これを丹青ふのせられ
りその故ハあながち不歩をもこび此會不參
籠せざる輩も此繪をひらき見て渴仰をえさし
めハ利益ひとしからしめんと也まこと不真假
一諦のおとまりへたてあるへらさる者也猶
信心深るらゑめんりためまのあとりなる奇特
さらふ一紙をくもへて短筆小録する而已
補國朝書目云東大寺二月堂縁起二卷
補展覧目錄東大寺條云二月堂繪縁起二卷書畫筆者
不知
補廣行曰俗筆をば

此補方古畫譜九

補 春村曰。二月堂小傳へていふ。繪ハ亮順筆な

二尊院縁起 二卷

畫狩野元信。詞筆者未詳。嵯峨二尊院藏

補 本朝畫圖品目追加云。二尊院縁起二卷。狩野元

信

補 真頼曰。二尊院縁起二卷。繪ハ狩野元信。詞書

筆者伏見宮貞敦親王三條西公條公外題。後奈

良天皇宸翰な。幕本與書云。右小倉山二尊教

院什物。縁起二卷。畫古法眼筆。於京都令摸寫畢

天保十一年五月。晴川院と見也。摸本博物

館小あ

若 王子社縁起 三卷

補 真頼曰。王子權児
縁起と若一王子社

縁起と同物なりわ
ノ部見合ナベ

畫狩野尚信。詞道春法印書。鈴木某在武藏國豊島郡王子邸

補 跋文云。武州豊島郡。若一王子社者。所勸請熊野

權現也。寛永年中。征夷大將軍左大臣從一位源大

君。治世理國之暇。敬神務民之餘。造替當社。新賜縁

起。從四位下侍從兼加賀守紀朝臣正盛。謹奉鈞命

乃令愚拙撰其詞。於是筆者揮行草之勢。畫工盡丹

青之美。正盛偶有不遑。齋藤攝津守三友。傳旨而後

其功已成。裝爲三軸。以納社內。誠是神寶之最也。須

遺芳於萬世。而耀神威。鎮邦國者。不在茲乎。寛永十

八年七月十七日。民部卿法印道春敬書

補 日光山寂光寺釘拔念佛縁起 一卷

補 圖畫一覽下卷云。品目云。日光山寂光寺釘拔念

佛縁起一卷。文明三年辛丑六月。弟子沙門某謹識

留日南考古書譜卷一

十五



白雲庵の僧侶

十六

二尊院縁起
京都嵯峨二尊院藏



二尊院縁起

信

補 古書評卷九

畫狩野洞雲探雪常信本朝畫圖品目

補元翰曰洞雲等の三人ハ後の寫此事なる歟

補真頼曰くノ部釘拔念佛縁起の條見合すべし

廿四孝畫詞 一卷

倭錦云住吉如慶廿四孝卷物詞李吟法印

躬行曰東見記小二十四孝ハ元人郭居業所作也羅山云皆奇異孝也是可爲兒女語之云云と

みとたて

女房卅六歌仙

左近將監光起筆土井大炊頭所藏

補二條行幸圖 三卷

補所藏者不詳摹本博物館不あり

補日光御祭禮繪 二卷

補博物館藏畫工不詳

廿四合春畫 一卷

土佐入道久翌畫無詞書

補仁和寺御室馬形障子

補古今著聞集卷十一云仁和寺御室といふて寛平法皇の御在所なり其御所不金岡筆をふるひて繪がける中不く不すぐれたる馬形をん侍るなるを此馬夜々はなれて近邊の田をくらひけり云云

補真頼曰此の事ハノ部馬の圖の條不全文を引たり就て見るべし

補鷄繪

目録

十七

補源平盛衰記卷二

清盛息女の除宇治關白殿ノ中門ニ

圓心法師ガ書タリケル鷄ハ寒夜ノ曉鳴ク事度
タアリケリ

似繪

文德實錄仁壽三年八月云散位從五位下百濟朝臣河

成本姓余後改百濟以善圖畫屢被召見所寫古人

真草木等精妙如生嘗在宮中令人喚從者辭以未

識顏容河成即取紙圖之其人案驗得之世之言畫

者取則焉撮要

古今著聞集卷十云後堀川院御時にせ繪を御好

あでける小北面下臈御隨身などの影を左京權

大夫信實朝臣めいてかせられける小大夫尉

永親其様をも志らでなへたる白襖着て北面小

候ひけるが召出さまける時太刀をとりてはき

て参りたでけるいみじうなむみ色はべりける

吾妻鏡仁治二年十一月廿七日云當將軍家御時

關東射手似繪可被圖之由有其沙汰今日以評定

之次先註其人數云云横溝六郎山内左衛門次郎

等尤可為其人數云云

水蛙眼目云まゝ嵯峨の山莊の障子小上古以來

の歌仙百人のにせ繪をかきて云云

躬行曰似せ繪ハ中殿御會圖最勝光院障子繪

まゝ風雅集竟宴圖なほあるべしおよそ肖像

にせゑのおなじ類なれど尊崇するかとハ肖

像といひ游戲のかゝをにせ繪とよびけ

しなるべくおぼゆ

二河白道圖屏風

本朝畫史云、惠心院僧都諱源信、姓卜氏和州人、洛東新黑谷、有二河白道圖屏風、蓋上古風致也。

日蓮上人註畫讚 五卷

名畫拾彙云、窪田紘泰、以繪為業、圖日蓮上人注畫讚五卷、跋云、天文五年申初秋、於若州長源寺書之。

畫工窪田藤右衛門尉紘泰、勸發師安立院大僧都

日政、今在京師本國寺畫圖品目同之柳庵隨筆

補本朝畫圖品目追加云、日蓮聖人註畫讚五卷本

國寺藏、奧書云、于時天文五曆丙初秋候、於若州遠

敷郡後瀬山麓長源寺、注畫之訖、畫工洛陽繪所窪

田藤右兵衛尉紘泰、勸發師安立院權大僧都日政

春秋六八

補圖畫一覽下卷云、日蓮聖人注畫讚五卷畫圖品

目云云本國寺藏

補真賴曰、日蓮聖人註畫讚、摸本博物館不あり

補全 五卷

黒川真賴藏

補第二卷末不云く、正長花押第三卷末不云く、極

月十四日、歲二十七書之とあり

補真賴曰、卷末不正長とあるハ、畫工なるへく

おほゆ詞ハ、本書ハ漢文なるを此の書ハひら

假字もてのべ書ふしてよみやまからしめと

り

補廿四孝繪

補李瓊日録云、長祿二年七月十七日、能阿彌依二

增補古畫譜卷之二

十四孝之繪來而有評議也

補 二人比丘尼草紙繪

補 燕石雜誌卷四云二人比丘尼

仁和寺藏肖像 七幀

花園左府有仁公藤原長房卿修理大夫顯季卿左

京大夫顯輔卿藤原清輔朝臣太宰大貳重家大藏

卿有家朝臣等像各畫工未詳

補 蜷川親元像

補 集古十種肖像部云宮道親元像蜷川氏藏

補 本朝畫圖品目云蜷川新右衛門像蜷川氏藏

補 真賴曰烏帽子素襖を着て袈裟をかけ珠

日蓮上人像

倭錦云春日行秀日蓮上人像身延山坊中什物

補 同

補 畫工便覽卷三云釋是生號日蓮上人院號大貞

應元年二月十六日生于房州小湊浦於比叡山法

學後廣說八軸自成一家法義號日蓮宗矣善書亦

工作畫圖下總國於于正中山法華經寺圖小法塔

其繪一々佛體修莊嚴最可賞也又圖繪影像收于

上總鷺巢長岡山鷺山寺其外處々不可收舉筆力

設色宛如生皆人貴敬之弘安五年冬十月十三日

於武州池上卒六十一

補 同 一幀

補 池上本門寺藏畫工不詳絹本

補 真賴曰摹本博物館小あり坐像小て法華經

增補古畫譜卷之二

地補考古書言考ナ

日蓮上人像
身延山奥院藏



を見る圖あり

補同 一幀

補中山寺藏。日蓮上人水鏡像。摹本博物館ふあり

補真頼曰。坐像ふて手小法華經をもて。畫上
小置色紙ありて讚辭を書せり

補同 一幀

補池上本門寺藏。繪大藏。卿摹本博物館ふあり

補真頼曰。右手小拂子を持左手小法華經をも
て。前小花瓶あり紅蓮花をさしはさめり。畫
上小置色紙三枚あり。光秀山妙光院の所藏の
像と甚相似し

補同 一幀

補相摸國光秀山妙光院藏。幅背小記して云。傳云

六神ノ...

自筆或云大藏卿筆又云宅磨歟

補真頼曰右手小拂子を持左手小法華經をもち椅子小かゝる像あり前小花瓶あり白蓮花を挿せり畫上小置色紙四枚あり文字剥落してよむべからば

補同 一幀

補身延山奥院藏畫工不詳摹本博物館小あり

補真頼曰手小經文をもてる坐像あり

補日像聖人像 一幀

補京師妙顯寺藏書畫并妙實摹本博物館小あり

補真頼曰畫上妙實の記小云日像聖人康永元年壬午十一月十三日御歳七十四寺主花押授與之阿闍梨定敏とあり像ハ椅子小かゝりて

右手小拂子をもち左手小法華經をもてり

曾南...

古書言考卷九

祢部

年中行事繪

六十卷

現存廿餘卷

好古小錄云土佐家傳曰凡六十卷今所存二十餘卷畫刑部大輔光長事々物々古ヲ徵スベシ此繪及春日驗記畫卷中ノ至寶也

土佐系圖云光長從四位下大輔畫年中行事六十卷在

官庫粉本中有藏菅浦名畫拾彙云藤原光長邦隆男雖土佐氏累代不墜

業於光長最稱傑出嘗蒙勅命畫年中行事圖六十

卷詞則雅經卿筆按光長奉事後鳥羽帝朝畫系以

為經隆子或為經隆孫恐并非是矣經隆建長中畫

南殿障子是以可見其誤也

類聚目錄云年中行事繪刑部大輔光長筆同異本

補住吉家傳ふる所の摹本

留南考古書言卷九

地衣云古畫譜卷九

同異本、獻菖蒲圖同異本、御前除目圖、又追加云年中行事十五卷異本六卷

倭錦云、年中行事繪六十卷、畫春日光長、詞飛鳥井雅經卿

補古畫目錄云、年中行事六十卷三河國ニアリトイフ未、知在何所

補本朝畫圖品目云、年中行事畫卷土佐家傳云、凡六十卷今所存二十卷餘畫刑部大輔光長詞書雅

經卿 補畫工便覽卷三云、光長越前權頭筆力活勢而最佳作也能得流水樹枝功少所圖年中行事畫家寫

之為粉本所畫甚俗也 舳艫訓卷三云、住吉廣當字曰慶曰、卷物禁中ニ在シ

ヲ、住吉如慶拜借ノ寫ス、其後禁中ノ御本燒失ス今禁中ニアルハ如慶ガ寫ナル由聞及ベリ、此卷物全部ハ六十卷有シガ今ハ十六卷残りテアリ、詞書ハ藤原雅經卿ナリ、繪ハ土佐光長也ト云云貞丈按ニ、彼卷物ハ古禁中ニ在シ、年中行事御屏風ノ繪ヲ寫シ傳ヘシナルベシ、其屏風ノ事ハ古書ニ見エタリ、其畫ヲ見ルニ大極殿ヲ畫ケリ、大極殿ハ高倉院ノ治承元年四月廿八日燒失ス、此後造營ナシト、百練抄ニミエタリ、然レバ治承ヨリ已前、大極殿現在セル時代ノ畫工ノ繪ナルベシ、光長ハ順德院ノ御代ノ頃ノ人ニテ、信實ト同時ノ人ナリト、廣當云リ、サラバ昔ヨリ在シ年中行事ノ繪ヲ、光長ガ再寫セル成ベシ

御前考古畫譜卷九

補真頼曰住吉家藏
本卷尾の記誤脱あ
る小や其の意解し
難きところあり

補元幹曰母屋大饗圖朝觀行幸圖追難等も此
の六十卷の内歟土佐家傳曰詞書雅經卿住吉
系圖同之
補又曰元幹詞書ある本未見東鑑小朝觀行幸
繪詞書をよむとあり是は符合す別本歟女
田樂の圖ハ正しく雅經卿の書なり
住吉家藏粉本每卷記云年中行事拾六卷者
者雅經卿仙洞様爲勅定一家重寶可加者也又者
繪者光長
朝廷之御用可立思召由池尻宮内卿殿爲奉拜借
寫所也誠至子々孫々堅有義不如之此筆風以可
爲一流鑑心少時不可他見者也所持法橋住吉如
慶印二代目具慶印同至右同内記印
現存粉本目錄

賀茂臨時祭一卷
宮内省園神祭
神祭詳二卷
御齋會
此四種目錄ふかふ
べき然ども必
重複あらん住吉家
目錄と再校を要す
但本文の目錄ハ博
物館の蔵本を以て
記せり此本ハもと
狩野勝川の蔵本あり

大饗	朝觀行幸	二卷	臨時容
踏歌	五節		中宮大饗
難合	内宴		蹴鞠
獻菖蒲	射禮		弓場初
叙位	左右近衛射		着駄政
印地打	齋院御禊	二卷	稻荷祭
城南神祭	鎮魂祭		平野祭
六月初	關白賀茂詣		神事
神祭	神事未詳		近江四宮
御燈	御齋會内論義		行幸未詳
灌佛	眞言院御修法		加持香水
佛事	綾綺殿舞妓	幾欠	仁王會
補東京住吉家藏本與書云			

御書之院宣池尻宮内卿殿

年中行事拾六卷者仙洞様為勅定可成家寶物也又者末世朝廷之御用可立思召由池尻宮内卿殿為奉拜借所寫也誠至子々孫々堅有之也不如此筆風以為一流鑑必少時不可他見者也
寛文二壬寅年二月

詞書參議從三位行左兵衛督

藤原朝臣雅經

繪從五位下守越前守土佐

藤原朝臣光長

與書之院宣池尻宮内卿殿

曾祖父住吉如慶法眼被執達

為令子孫知之記畢

寶曆十三未年 住吉内記藤原廣守 花押

貫雄曰余於京師所見宮内省園韓神祭卷鎮魂祭卷其他兩三卷又墨坂堀家所藏賀茂臨時祭一卷齋院御禊圖二卷是住吉家藏之外也躬行按小上件貞丈が舳艦訓小いへる年中行事御屏風所見なしも一八年中行事御障子の誤ふハあらずや彼御さうトハ仁和元年小野宮のたつ進らせらきて建らるよものみみ迄たまど素より畫ハあらざるべし所謂障子さて光長ハたし承安中の人ふて治承燒亡已前小まのあさり小大極殿を見て畫し事あるけまバ只管廣當が説小よる此考ども少く荒涼ならむらし又曰飛鳥井雅經卿ハ承久三年三月十一日五

留甫考古書譜卷七

十二歳薨ぜらる。光長よるハ稍後輩にして時
世適ひがさし。さるを畫家常ハ光長をもて雅
經卿ハ配するハ此誤也又久しといふべし。
そもく光長ハ月輪殿承安三年の玉海ハ隆
信朝臣とともハ畫の事み近たれば年歴ハた
しなれど其出自ハ詳み志られぬをたふハ
土佐の氏族とのみねもふべうらば倭錦ハ隆
親の男とせハ其據を志らば拾彙ハ邦隆
の子とせハ邦隆ハ分脉ハ隆親の二男。經隆の
弟にして安元治承中光長同時の人といふべ
く。又拾彙ハ經隆の子とるを非として。經隆
建長中南殿障子を畫くと。いふをもて證とせ
しハかの加賀守有房を經隆のもと此名ぞと

いへる。土佐家の誣妄を信たるものにて。是等
みな無證の愚論にして。いとゆる五十歩を以
て百歩を咲ふハ過ず。經隆有房ハ別人にして。
年歴さへもいとくたがへるよしハ。已ハあら
海御障子の處ハいへりき。凡畫家の系譜。疎漏
ハして訛謬たほく。或ハ素より意ありて附會
せしもの少らば。能く古記を照して勘へざ
れば。其欺を受く。畫工便覽。本朝畫史。杜撰ハ
て濫ハ名畫拾彙もまゝ精密といひがさし。
唯顯文抄ハ徵を古書ハとりて。頗あやまりを
くなし。其他ハ論むるふたらず。
補真頼曰。年中行事繪のうち博物館ハ藏せる
摹本ハ。鷄合。御齋會。射禮。五節。大饗。中宮大饗。着

補 枕草紙卷十一

馱政・稻荷祭・六府獻葛蒲・關白加茂詣・弓場始・鎮魂祭・印地打・灌佛・仁王會・御齋會・内論議・内宴・賭弓・朝覲行幸・臨時客・真言院御修法・城南神祭・六月祓・競馬・御燈・叙位・踏歌節會・平野祭・齋院御禊・四宮祭・蹴鞠行幸とねぼしきもの・日吉祭とねぼしきもの・祇園祭とねぼしきもの・其他名目の志まざるものあり。又重複のものも此あり。すべて四十七卷あり

補 年中行事繪

補 枕草紙卷十一 かんげんろくの御屏風こそをか
かいうおほゆる名なれかんぶよの御屏風ハを
、しうぞきこ色さる月次の御屏風もをり
補 同春曙鈔卷十一月次の御屏風年中行事をか

、まさるを云なり源氏小月次の御繪とあるも
ねなし

補 真頼曰 枕草紙小見色さる月次御屏風を年
中行事繪のはしめおハあるへき

同

古今著聞集卷十一云 後白河院御時年中行事を
繪おか、まて御賞翫のあまり、松殿へ進ぜられ
たりけり。まらふ御覽して僻事あるところ、
くくおねしがみをして、其誤を御自筆おて志
るしつけて返進せられさけるを、法皇御らん
トて、繪を書なほさるべきお、勅定お、これほどの
人の自筆おて押紙志さる、いふをなち捨て繪
をなほすことあるべき此事およして此畫すで

補 枕草紙卷十一

小重寶となすりとして、蓮華王院の寶藏ふこめ
らまふけり、其たし紙いまふあすといとみ
きことなり

補 年中行事繪別本 三卷

補 博物館藏畫工不詳

補 真頼曰、元日節會、白馬節會、北陣の三卷なり
按る、此畫卷、諸節會儀式等あすて、卷數も多
かりけるを、散逸して三卷残まらるべし

補 涅槃像

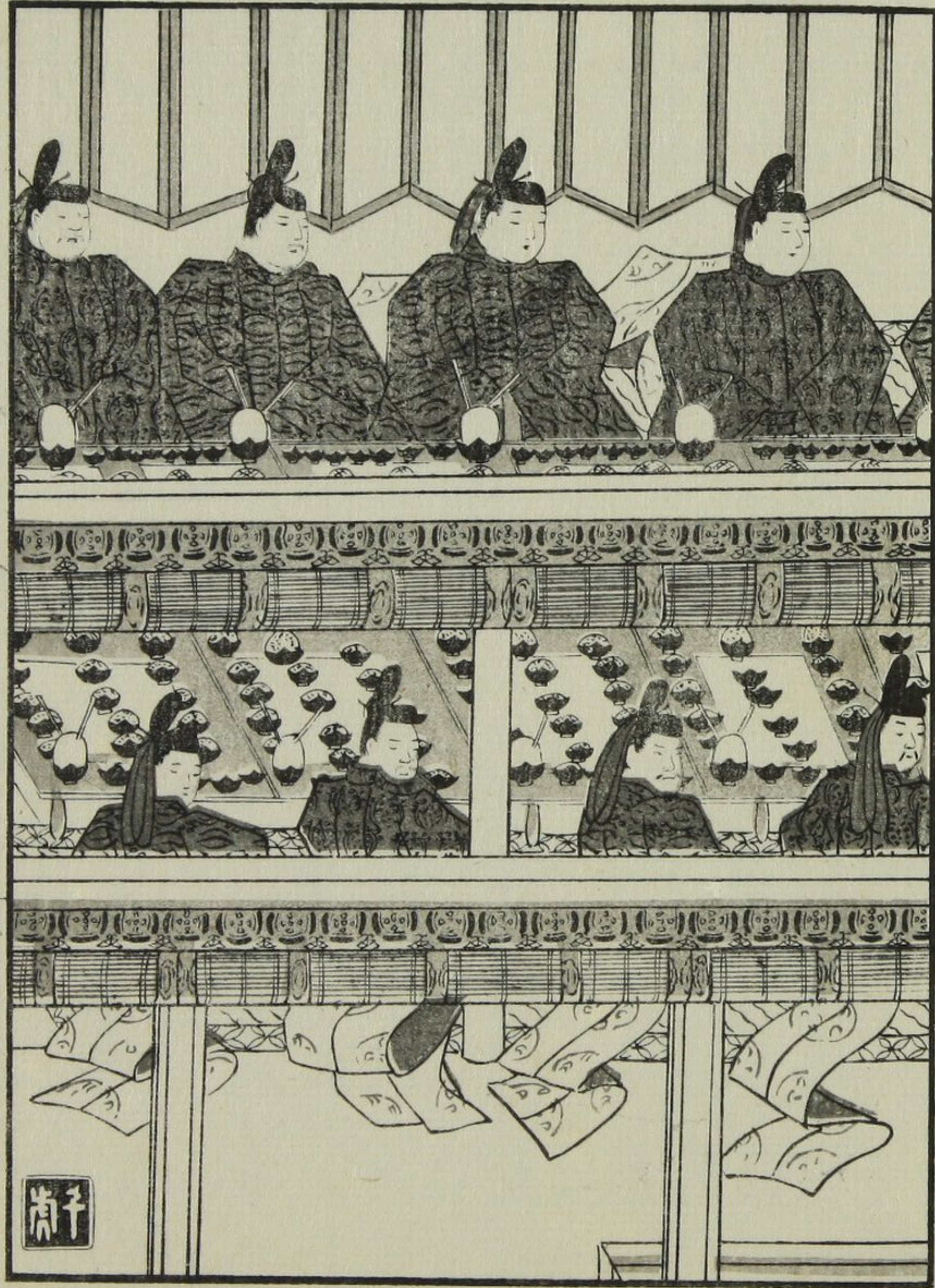
補 山城國東福寺涅槃像銘云、應永十五年六月明

兆殿司筆

補 都名所圖卷三云、東福寺云、當寺の涅槃像ハ
應永十五年六月殿司五十七歳ふして畫けるよ

脇書ふあり本朝無雙の像なれば名高し

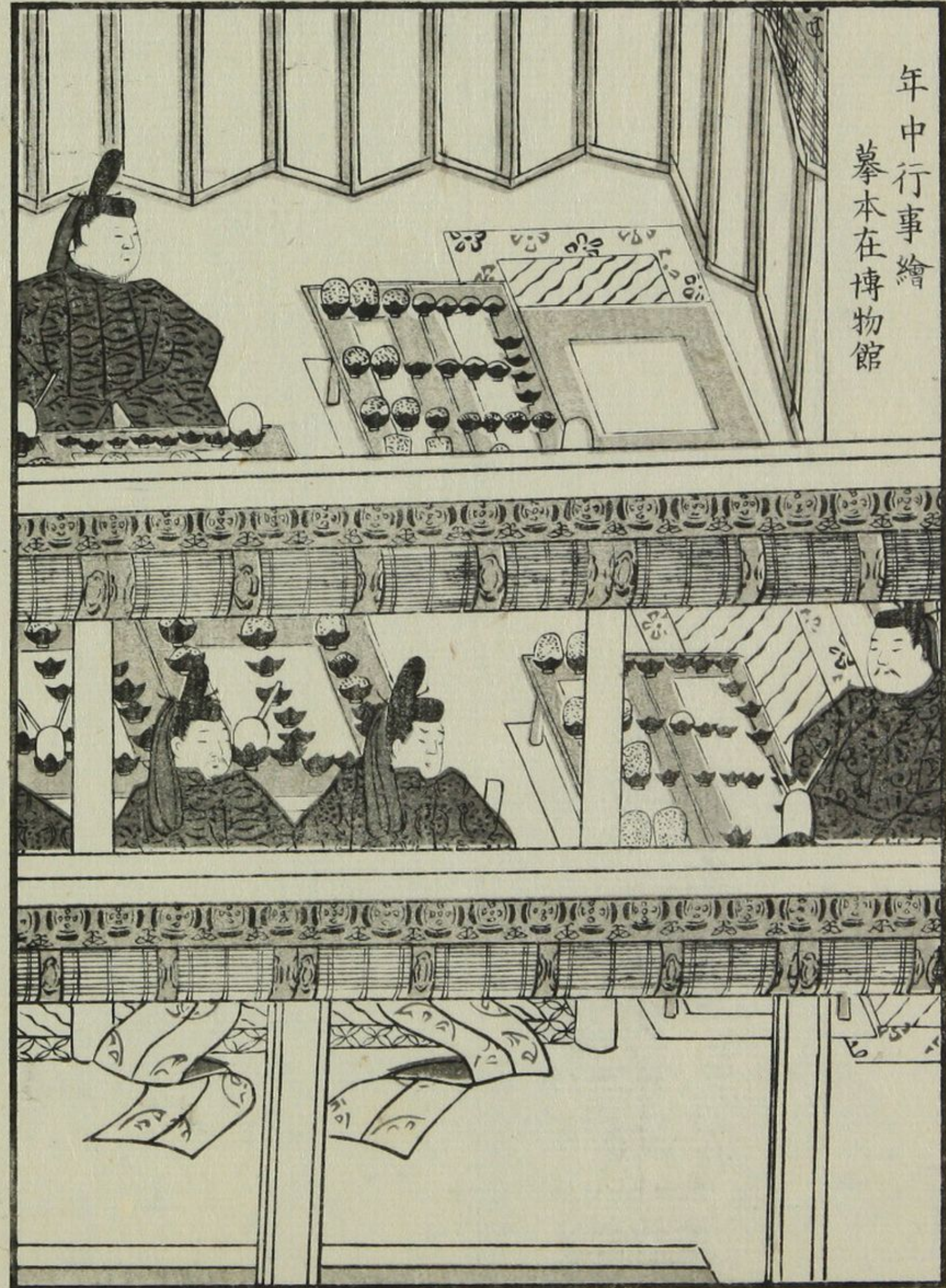
補 畫工便覽卷四云、兆殿司名明兆、號吉山赤脚子、
不知何許人、康永二年生、住洛下東福寺南明院、從
聖一國師四代嗣大道一以禪師、天性耽畫圖、朝參
暮請依之有怠、大道戒之、然不隨師教、自號破草鞋
子、以棄於大道也、或時欲發弘願遊筑紫、以為東福
雖巨叢自古無佛涅槃像、我自往摸肖像、欲增惠日
之壯觀、既而俶裝到稻荷橋、有化僧來曰、僧奚往乎、
殿司說夙志、化僧曰、子暫憩旅店、我知其事、自懷中
出一卷繪曰、是佛涅槃像也、我愍子志、欲代蒼海萬
里勞矣、言畢、化僧不知所往、兆袖一卷歸本寺、欲摸
寫之家貧無彩色具、寺東有河水、欲聚諸石以代五
色、于時上流石顯五色奇石惟多、掇取之磨而為彩、



曾南芳古畫正百卷九

三十

子



年中行事繪
摹本在博物館

共祈老古畫譜九

如意所欲遂寫一本以納本堂于今二月中五日安置堂前諸人作群矣化僧傳受畫本藏南明庵庫藏北寂而後隨之失矣

補李瓊日錄云文正元年二月十日奉報東福寺御成先入佛殿佛涅槃像前御燒香中畧北殿主所筆之觀音三十三幅前掛唐織物打敷

補同
補新編鎌倉志卷三建長寺云涅槃像一幅羅漢畫像八幅并北殿司筆

補同
補異本土佐系圖追加云行廣云云涅槃像絹地在大應寺陣幅一間バカリ法名書印无シ
補同 一幅

補東寺寶翰古器目錄云古畫涅槃像文安三年二月ノ箱銘アリ一幅

補同 一幀
補鎌倉圓覺寺藏筆者不詳組本

補政矩曰此の畫五六百年前のも此みて筆意殊勝なり

子日繪詞 一卷

後深心院關白記永和元年五月廿九日云及晚自僊洞被下

御書云云又依召進繪一卷子日繪詞花山院御筆云云其子細普賢基通寺殿一紙所令注置給也

補さ免物語 一卷
畫春日隆能具慶詞寂蓮了珉法師
摸本與書云春日隆能と鑑定申遣候天和二年正

増補老古畫譜卷九

月寫之具慶

躬行按小主殿頭隆能分脉小左衛門佐清綱男
嘉承頃の人なり。寂蓮ハ俊成卿甥。建仁二年七
月廿日化す。嘉承ハ後るゝ事九十餘年。書畫の
年序あるひがし

補真頼曰。寢覺物語ハ夜の寢覺物語ハあら
ぬ。夜の衾さめ物語畫此事ハ明月記を引て
よ。部小詳小せり

補又曰。畫様隆能ハ畫がけ里といふ。源氏物語
繪小いとよく似て。殊勝のも此なり

子日御遊圖

畫圖品目載之

子日御遊再興圖

一卷

畫圖品類云。少外記友俊撰補本朝畫圖品

鼠雙紙 一卷

倭錦云。土佐光信鼠草子類聚目録同之 養川院藏

補古畫目録云。鼠草子光信筆。養川院藏

補古畫類聚目録云。鼠草紙繪狩野某藏。光信筆

補同異本

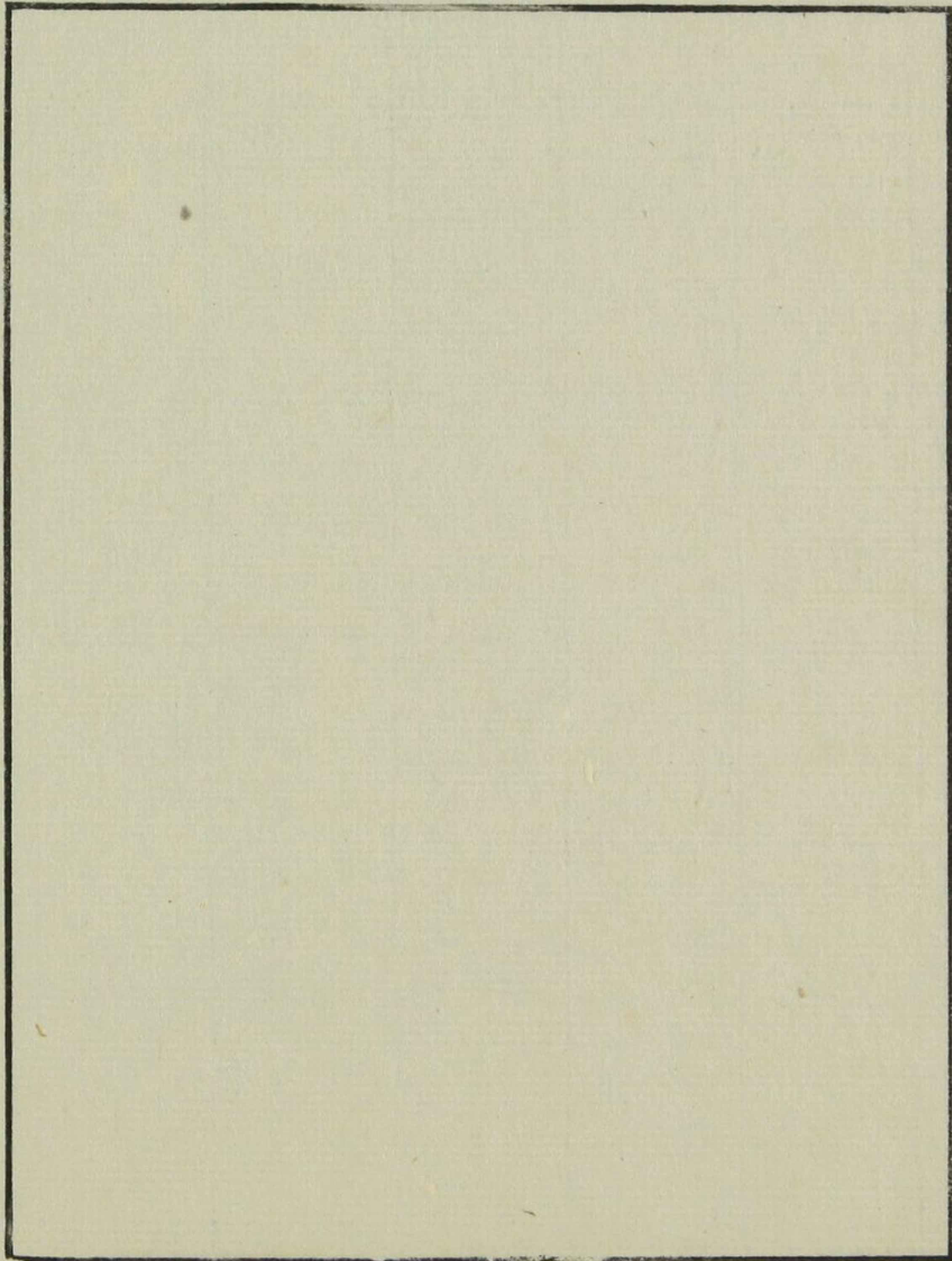
補古畫目録云。鼠草紙異本

補古畫類聚目録云。鼠草紙異本

補猫の雙紙の繪

補燕石雜誌卷四云。猫草紙

白月方古畫目録



乃部

野御幸圖

國朝書目載之亦載之品類

補本朝畫圖品目云野行幸

補元幹曰此畫卷未見恐年中行事之內歟

能惠法師繪詞一卷

倭錦云春日行長能惠法師草子詞寂蓮

補本朝畫圖品目追加云能惠法師畫詞殘缺畫行

長

明月記寬喜三年六月十日云今日如聞時房朝臣妻之母能

惠得業自瑛魔宮之娘也因茲宗平朝臣成所緣之

儀宗朝侍法師居住件ノ尼宅為右筆之人云云

躬行曰尊卑分脉小道長公次男賴宗公流內大

補真賴曰御狩野御
幸圖といへる此
の野御幸の圖と同
物ならんみよノ部
見合ナベシ

明治十年三月於廣隆寺見之詞かくて行ほどおほきあるとりのあかく

臣宗能公十五男東大寺中納言得業能惠往生人仁安四年正月十六日入滅先年病惱死去而依八幡大般若經發願事自冥途被返遂願了とみえて遷寂の年號釋書と不同なり又按ふ元亨釋書卷六云承安四年甲午南京能惠法師死對閻王宮授般若同書微考云能惠法師大納言藤原宗能公之子也と見ゆさて行長所ハ建仁承元中の人といふ説あきとも行長所畫鎌倉荏柄天神縁起元應元年の自跋あきバ上件の説どもハ謬なる事あるく寂蓮ハ建仁元年寂したまは行長先づてる事百餘年世運さらふ合がとし此卷子太秦廣隆寺小あるもの書畫とも小精絶なり筆者寺傳なし圖

丹ぬりたるあり云々此前の詞缺たり

中小日本國東大寺華嚴宗大法師能惠と記せり即閻王の使ふともなひて能惠地獄をりぐる圖也惜むべし首尾いさゝ破裂せり貫雄曰此卷往々世上小あり西邨宗先所藏のもの殘欠一卷長八寸はありの小卷もと太秦一子院の所傳畫行長詞寂蓮書畫とも小妙なり

補真頼曰予明治十六年七月能惠法師繪詞殘缺一段を見る閻王と冥官と二人をてり詞書あり寂蓮とハ見込に繪ハみごとなるものなり住吉廣尚の行長正筆の極書副り

能惠得業繪

高山寺聖教目錄第一百一合能惠得業繪

在禪院

增補古今圖書集成

展閱目錄高山寺條云。義相元曉繪并能惠得業繪納一合。本朝畫史云。能惠得業梅尾僧也。性嗜畫。其所寫在梅尾。

躬行曰。能惠梅尾僧。其所寫在梅尾。と畫史不記。ハ。此畫をいへるなめこと。能惠ハ東大寺の住侶ふくて。梅尾の僧ならび。是ハ能惠繪詞此同卷異本なるべくたぼゆるを能惠の筆とせり。畫史疎謬往々如此矣あて

補真賴曰。能惠得業繪詞殘缺一卷。摸本博物館小あり。奥書小云はく。太秦廣隆寺藏と記せり。能惠法師繪詞殘缺一卷。

補圖畫一覽下卷云。東大寺能惠法師繪詞殘缺一卷。詞書寂蓮。畫者不詳。書畫トモニ見事ナリ。八寸

許ノ卷子ナリ。西村藐菴所藏日本東大寺華嚴宗大法師能惠ト卷中ニシルセリ。能惠法師鬼類ニ率ラレテ。地獄ニ至ル圖ナリ

補元幹曰。明月記寛喜三今日如聞時房朝臣妻之母。能惠得業自球魔宮之娘也。

補賭弓圖屏風
補町田久成所藏。賭弓圖屏風。住吉廣通筆。

補真賴曰。此の屏風。五節舞屏風と一雙なり。惜むべし。畫はふまが剥落せり。この部五節舞屏風の條と參看すべし。

補信實朝臣似せ繪

補古今著聞集卷十一云。後堀河院御時似せ繪を御好あてける。北面下藹御隨身ふどの影を左

增補古今圖書集成

北神考古畫譜卷九

京權大夫信實朝臣をめぐりて。かゝせられける。小
大夫尉永親その様をも志らで。なべらかある。白
襖きて北面に候ける。めし出さまける時。太刀
をとりてはきて参りける。いみじうなんみえ
侍ける

補野見宿禰像

補古畫類聚目錄云。野見宿禰像。南都興福寺藏

補真頼曰。野見宿禰當麻蹶速參内圖といへる

もの即是なり。古風見ろべきものなり

補又曰。集古十種部肖像卷四。此の圖をのせて

野見宿禰當麻蹶速の像と定まるが如し。志あ

まども此の像の上小題せるを見る。野見宿

禰命參内像とあり。命參内の三字詳ならず予

試みかくよみたり。なほ考

しふべノミノスクネノミコト。サンダイノザウ
とよむべし。因て按ずる。先ふたてる一人ハ
案内ををる官人ふて。後ふたちて行くものハ。
野見宿禰なるべき歟。さらば當麻蹶速ハあ
らさるべし
補又曰。予おもてる摸本に記して云ハク。興福
寺什物野見宿禰像。フトヌノ板ニハリ付アリ
と見ゆ。り

信實朝臣自畫像 一幀

贊如圓法師。用片假字書自詠

新拾遺集哀傷信實朝臣みづら。影を寫しおきて

侍けるを。みまら。て後みまべりて。如圓法師に

もひ出てみるもかな。きたもかげを。あになら

信實朝臣自畫像



白眉用字方寸畫畫普卷乙

三十七



野見宿禰像
摹本在博物館

城新三古畫詩卷加

北朝天皇御影

くくみうつしにきけん

躬行曰藤原信實朝臣正四位下左京權大夫曾

畫順德帝中殿御會圖正四位下右京大夫隆信

朝臣男父子能畫絕倫

補真賴曰摸本博物館ふあり記して云信實朝

臣像御室御藏と見込り

信長公像 一幀

東帶肖像畫工不傳 大德寺總見院藏

補真賴曰摹本博物館ふあり

補同

補織田家藏平信長公像永德筆

補真賴曰此の圖桂林漫錄上卷ふも載たり肩衣を着たる坐像なり摹本博物館ふあり

波部

補陪膳御次第圖

補明月記云建永二年正月二日今日主上御膳陪

膳清長催法性寺殿自筆御次第圖等入道殿大納言

大將御勤仕之時自大殿令賜給正本ヲ給尤為面

目

補はね馬寄馬障子

補古今著聞集卷十一云清涼殿云云渡殿ふハは

ね馬よせ馬の障子を立て云云

補真賴曰はね馬の障子ハ其名いと高し故小

更小大ハ小掲く委しくちせノ部清涼殿渡殿

馬形御障子の條を見るべし

補八幡大神御影

曾補考古言譜卷九

補古事談卷五

補畫工便覽卷三云吉光不知何人善畫神佛釋像人物駿州沼津妙海寺什物二幅存所謂天照八幡二神有士氣活動日蓮共讚

補同

補同書卷四云雪丹倣圖繪於知賓好以八鳩作八幡大菩薩尊像異作而甚動趣如有神

補同

補古事談卷五社部佛勝光明院寶藏二御座スル御影八幡村按小弘法大師御渡唐之時手自令

奉圖繪給之御影也僧形戴日輪給大師歸朝之後被

奉安置高雄寺荒廢之後鳥羽上皇尋召年紀可被奉安置件寶藏云云

補同 一幅

補東寺寶翰古器目錄云八幡宮御尊影弘法大師真筆一幅

補同

補盞囊鈔卷二云弘法大師ノ現寫シ奉リ給八幡大菩薩ノ御影ハ日輪ヲ戴給又延喜ノ聖ノ勅定ニ依テ敦實親王ノ造給シ法體ノ御影是ニ同ジ尤深ク可思子細アル歟

補同

補同書云延喜ノ聖ノ勅定ニ依テ敦實親王ノ造給シ法體ノ影

補真賴曰敦實親王ノ造リシ八幡大神法體像といへるこそなり上條小全文を掲げたればこゝハ畧す

百員南考古書並百卷乙

此補考古書言卷九

補 八大荒神像

補 倭錦云、粟田口隆光八大荒神

補 同

補 同書云、宅磨為久八大荒神

補 半身阿彌陀像

補 宣胤卿記云、永正十六年五月九日、入道前内府

所持之半身阿彌陀畫像、借之書寫事、仰遣光信朝

臣、此本天王寺西門腋壁惠心僧都圖像寫之云云

補 真賴曰、天王寺の西門の壁なる半身阿彌陀

の像ハ、惠心僧都の筆なること、此文を以て微

とをべし

補 同

補 同書云、永正十六年五月九日、入道前内府所持

之半身阿彌陀畫像、借之書寫事、仰遣光信朝臣、此

本天王寺西門腋壁惠心僧都圖像寫之云云、十九

日召寄番匠令作本尊臺衝立障子也、廿一日阿彌

陀下繪張付衝立障子遣光信朝臣、廿八日衝立障

子之阿彌陀出來、繪所土佐光信朝臣書之、今日五

十足先遣之三十遣之、臨終之時可立枕料也、裏ハ令

書不動明王、為令降伏臨時之魔障也

高向恐悅候器中抑半身阿彌陀雖何時可進候、納

物も此方ニハ人を給候て可進候、これハ天王

寺西門脇壁惠心僧都圖像ニて候を寫申候、此

眉間珠ハ法隆寺井底ニ太子勝鬘講御講讀之

時毎日御行水之時、為淨於其水所被納之珠ニ

候、此尊容寫候時、不慮有靈瑞感得奉入此白毫

曾補考古書言卷九

長谷寺古書譜卷九

之由申、隨分泌藏之尊容候、被寫候者尤可然事候、旁近日以書面可申述候恐々謹言

永正十六年五月九日 堯空

御本尊の御障子被下候心得存候、山下へ紙をのへられ候可然存候、山ニ木をどころくく書可申存候、又御うらに不動坐像も心得存候石座なと候て可然存候、將又御要脚三十足被下候、是迄も入候ぬ事を迷惑仕候

刑部大輔

補長谷寺觀音像

補多間院日記云、天正十六年十一月十六日、侍從ノ子琳賢、長谷寺ニテ本尊書之見セニ來、抑見事無比類事也、當年十三歲歟、四歟、奇特事也ト、各高

野衆稱美シテ、權者也ト申云云

補八字文殊像

補東寺寶翰古器目錄云、圓觀上人筆八字文殊一幅

補跋陀婆羅菩薩像

補新編鎌倉志卷三圓覺寺跋陀婆羅菩薩畫像壹幅、畫師宗淵筆

補放光佛像

補東鑑卷五十一云、弘長三年十一月十七日甲午

霽、被圖繪供養放光佛、是依尊家法印申行、至御産

之時、連日、被奉稱養云云

補八葉九尊曼荼羅

一幀

補本朝文粹卷十四云、重明親王為家室四十九日願文、後江相公、弟子重明替首和南白佛言云云、仍

曾補考古書譜卷九

北神考古言卷九

奉繪八葉九尊曼荼羅一鋪云云

八幡宮縁起宇佐官藏三卷

畫圖品目云八幡宇佐宮御託宣集卷尾曰和氣清
麻呂為勅使參宇佐宮事被書繪詞私云此繪者後
白河院御宇被納蓮華王院寶藏相公顯雅卿為辨
官之時依奉寶藏事之次被寫置此詞矣寶治年中
云云

同 二卷

畫刑部大輔光信詞義教將軍

卷後云為貴三所之威光尋取兩卷之縁起則致新
圖奉納尊前早鑒敬神之志彌垂感應之瞻矣永享
五年孟夏廿一日征夷大將軍左大臣兼右近衛大
將源朝臣

補真類曰予宇佐八幡縁起摸本二卷を見る但
し詞なし繪圖ハ譽田ハ幡縁起似り恐ら
くハ藍本ハ同物なるべし

同 二卷

畫刑部大輔光信詞義教將軍

卷尾云為貴三所之威光尋取兩卷之縁起則致新
圖奉納尊前早鑒敬神之志彌垂感應之瞻矣永享
五年孟夏廿一日征夷大將軍左大臣兼右近衛大
將源朝臣

同 五卷

宗廟縁起三卷神功皇后縁起二卷繪刑部大輔光

信詞義教將軍
跋文云先年當社參詣之時拜見縁起三卷處事畧

繪圖考古言卷九

地神考古書卷九

繪不周備。仍拾舊本之遺。更致新寫之功。益顯既往之靈驗。為備將來龜鏡。謹寄進寶前。數奉仰玄鑒者也。永享五年孟夏廿一日。征夷大將軍左大臣兼右近衛大將源朝臣花押
譽田宗廟御緣起土佐光信正筆也。寬文六年六月日法印狩野探幽押
卷末云。新圖神功皇后緣起。奉納譽田宗廟之寶前。繪其兩卷。象于二儀。即憑不測之感通。常施無為之德化而已。永享五年孟夏廿一日。征夷大將軍左大臣兼右近衛大將源朝臣
神功皇后御緣起。繪土佐光信真筆也。寬文六年林鐘中旬法印狩野探幽押
一本與書云。普光院義教公御自筆。右緣起之繪。土

佐將監光信也。寬文九年十月廿五日。大内記菅原豐長
畫工便覽云。河内譽田八幡宮有住吉法眼所畫之緣起。普光院義教公曾覽之。其圖未竟。乃命光信令補綴之。光彩精緻。可謂神妙
輜軒小錄云。詞書義教將軍畫古土佐倭錦云。土佐廣周神功皇后緣起。詞將軍義教公躬行按。宇佐二卷緣起已下。悉畫光信。詞義教將軍とせり。然之とも義教公嘉吉元年六月赤松滿祐。為小弒。さらる光信。ハ彈正廣周男實中務丞光弘の子也。倭錦。ハ天文十二年九十歳卒。と記せり。然らば。永享嘉吉の當時。光信未生。已前。をき。誤なる事論。をし。倭錦。ハ譽田

普光院古書卷九

躬行再按不足仲彦
天皇息長足姬命譽
田別天皇をまを
奉られしや

續群書類從目錄第
六十七有譽田八幡
宮縁起

神功皇后縁起

神功皇后縁起を光信の父廣周とせり此説當
れらば年歴はかなつり又詞書はつきも義教
將軍とせれども跋文のうちに自書此趣さり
のみ尋ねぬの説もまこと信難してさて上の奥
書に為貴三所威光云々とある三所の宇佐男
山譽田をささるものにて此三社の縁起一時
に奉獻せらるるの巻後の年月よてもある
補真頼曰奉本三卷博物館にあり外題譽田宗
廟縁起とあり
社蔵 向山 二卷
同
畫宗軒詞寺務公順僧正
卷末記云繪師宗軒詞寺務公順此繪上下兩軸祐
全法師勸發令奉納東大寺八幡宮寶殿可為未來

續群書類從目錄第
六十四收東大寺八
幡縁起又轉寫會記

際之靈寶者也天文四年八月十五日道遙叟堯空
書
本朝畫史云ト有別號宗軒畫東大寺縁起與琳賢
同時疑是東大寺之繪所乎
補古畫目錄云東大寺八幡縁起繪越前守行光筆
南都東大寺藏
展閱目錄東大寺條云畫宗軒詞一條太閤寺務公順祐
全法師寄附有天文四年與書廣行云俗筆不足見
後奈良院宸記大永十四年九月十日云帥大納言八幡縁起
二卷上下見參二入ル同日十日東大寺八幡縁起繪
詞今日書之帥卿ニツカハス上卷許也繪者大和
國繪師也
春村按小此縁起詞書一條太閤公順僧正と云

續群書類從目錄第
六十四收東大寺八
幡縁起又轉寫會記

るもの誤り。上巻の宸筆下巻の帥大納言
なるべし。宸記の御文頗いち志るし。さて帥大
納言の三條西稱名院公條公也。畫工の考る處
なり
躬行曰。展覧目錄畫圖品目等に。詞一條禪閣寺
務公順とをるの誤り。詞の公順僧正一筆な
り。兼良公の文明中覺ざられて。時世合がし。
さて春翁宸記を引て論まされど。大永の縁
起の今傳をらび。按ふ。大永四年より天文四年
まで僅に十一年なまど。再造ありし。故あり
て其時已小失ありべし
補真頼曰。手向山社藏八幡宮縁起の東大寺八
幡宮縁起ともいへり。や。部見合をべし

補又曰。古畫目錄。東大寺八幡縁起繪。越前守
行光筆。南都東大寺藏とあり。畫工を行光とせ
るの誤りありべし。但行光のかける縁起別あり
ふ。よや尋べし。今傳る縁起の繪は。宗軒詞の作
者。公順詞書筆者の實隆公あり
補又曰。東大寺八幡縁起の畫工を行光と傳ふ
ること。恐らくの同人。此筆ある天狗草子。此
東大寺の巻といふ。あるを誤りて。混とる
あるべし。おの東大寺八幡宮縁起の。宗軒の名
をあるべし。されば。まがふことなし
補同 闕本
補古畫類聚目錄云。八幡縁起。刑部大輔光茂筆
補古畫目錄云。八幡縁起繪。闕本。刑部大輔光茂筆

住吉家繪本

同箱藏 五卷

倭錦云住吉具慶筑前箱寄八幡宮縁起五卷

長谷寺縁起 三卷

補古畫目錄云長谷寺繪縁起五卷大和國長谷寺

藏

展閱目錄長谷寺條云繪詞縁起三卷畫筆者不知詞後

圓融院宸翰廣行云畫俗筆也

道の幸同條云繪詞縁起詞後圓融院宸筆のふ

いほど繪いささふからば

倭錦云土佐光弘初瀬寺縁起

躬行曰後圓融帝ハ明德四年四月廿六日崩ト

給へり光弘ハ嘉吉項の人なれば時代いさ

の後またるべし

補真頼曰古畫目錄不載る所の長谷寺縁起

ハ五卷とありて展閱目錄ふ合へば古畫目錄

の説誤ふやたゞまゝ別物歟考ふべし

補又曰鎌倉長谷寺縁起といふものあり加ノ

部見合をべし

三卷

遠碧軒記云長谷縁起三卷ウリ物ニ出金子百兩

ト云土佐上代隆兼ノ筆也

同

同書云長谷縁起詞ハ飛鳥井雅俊畫ハ土佐光信

也奥ニ大智院義親ノ詠歌三首自筆ニテ書付タ

リ此縁起ハ即慈照院義政公ノ寄進ナリト云

雅俊卿正二位大納言大永三年四月十一日薨六十
今出川義親足利義政公弟初浄土寺門主
義尋寛正五年歸俗
延徳三年正月七日薨

增補考古畫譜卷九

化物雙紙 一卷

繪土佐光茂詞飯尾彦六左衛門尉常房
奧書云此一軸土佐刑部大輔真筆也明曆三年八
月日探幽齋

補真賴曰摸本博物館小あり卷尾云右卷物一
卷稻葉丹州所持借得而摸之于時天保十四年
癸卯六月十八日晴川院と見込とり案山子の
化物蟻とだふとの化物等を互あけり

同 一卷

畫狩野守信

橋姫物語 一卷

畫圖品目云畫者姓名不傳詞白川三位雅喬王
倭錦云住吉如慶橋姫物語

探幽題籤云雙紙繪
土佐光持筆按光持
即光茂

破 ひとんく 一卷

補本朝畫圖品目追加云破來頰等物語一卷畫巨
勢惟久詞行尹卿筆

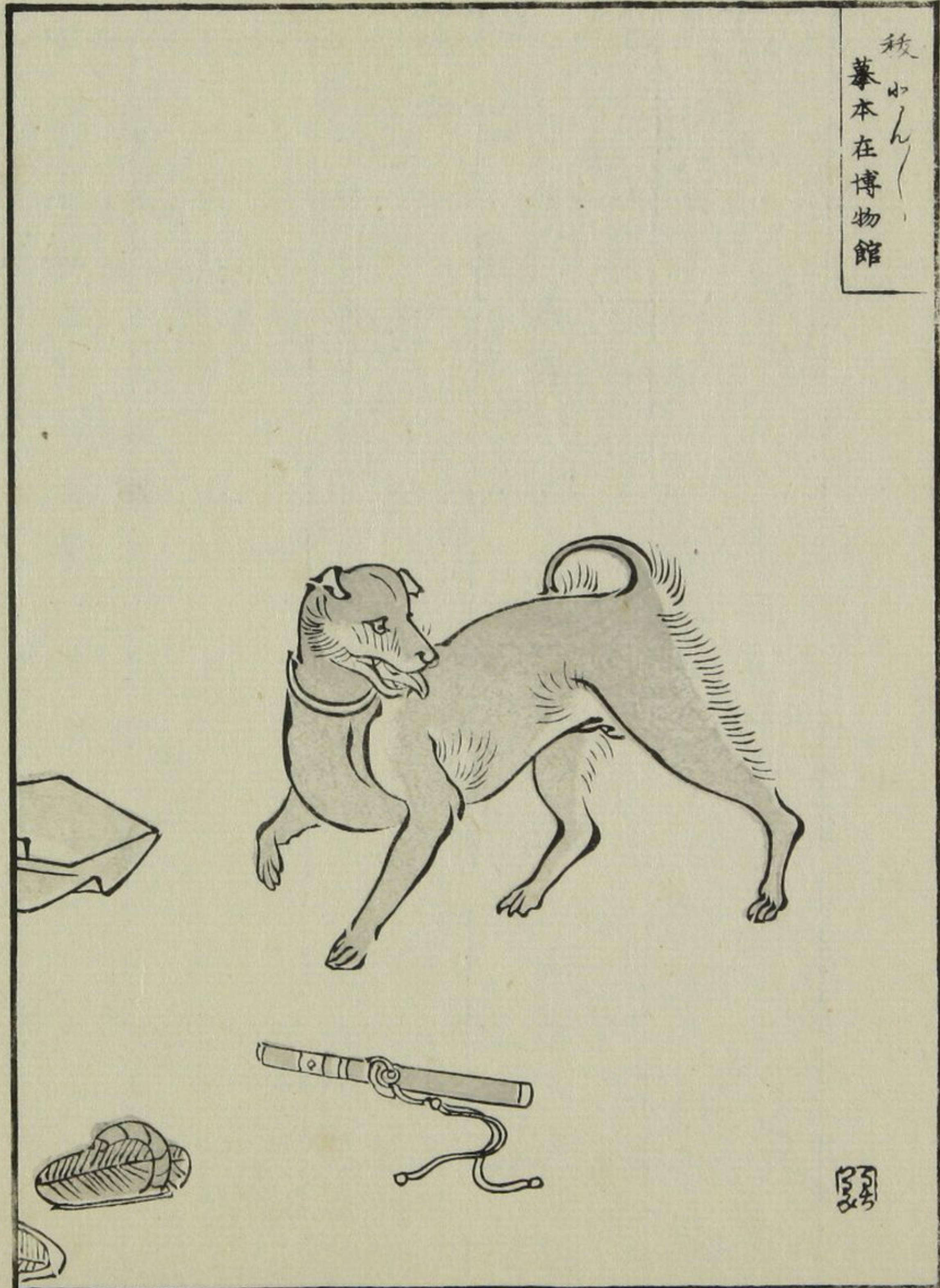
古物語類字抄云按小色葉和歌集にはしひめと
み込たるハ顯注密勘河海抄歌林良材等にいハ
る宇治橋姫と同物みて浮世ハ傳えらざられ
ど別小まハ一種ありそは畫圖品目ハ橋姫物語
一卷とみ込より此繪卷ハハまごみざまどらな
らハ後代のえ此なるべハ但詞書白川三位雅喬
伯雅喬王正二位なり元祿元年十月
十五日六十九歳ハて覺ト給ハり
貫雄曰此詞書妙法院堯然親王白川二位雅喬
王飛鳥井大納言雅章卿其他公卿合作なり
補了仲曰白川雅喬王一筆のえ此なり

增補考古畫譜卷九



通補方寸堂普光

四十八



秋
幕本在博物館

北
古
畫
言
卷
九

四

倭錦云。飛驒守惟久。はらひとんこ。詞行尹卿。古物語類字抄云。此雙紙ハ尾州家の祕庫ニあり。元亨建武の頃ニ出來しものあらんといへり。補真頼曰。被ひとんこ。或ハ不留房繪詞ともいへるふノ部見合をべし

補放屁軍 一卷

補圖書一覽下卷云。放屁軍一卷品類云。畫鳥羽覺融。詞醍醐成賢

補春村曰。勝畫と同種のものなるべし

補真頼曰。放屁軍或ハへの繪卷ともいへる。へノ部見合をべし

長谷雄雙紙 一卷

補本朝畫圖品目云。紀長谷雄草子一卷。畫者不傳

補古畫目錄云。紀長谷雄縁起摹本。屋代太郎家ニ在リ

好古小録云。畫工姓名不傳。摸本二種アリ。破裂不全モノ佳本也。全者ハ俗手ノ補ヒナリ

古物語類字抄云。此物語ハ紀長谷雄卿。朱雀門の樓小のぼりて。鬼神と雙六をうちたり。に美女をかけも此ふまゝりける。あせをの卿かちにけれ。いみじき女房を得て。寵愛の餘りに七十五日の此ちに會べしと。鬼神のいましめたり。をもちも。日あらざりて。寐よりけき。その女と。に水おなまて。あられ失ける。よかけ。畫工ハ土佐行長といふ。説ありとみゆ。板谷桂舟曰。此卷畫工雖有説々。克肖荏栢天神

曾補考古書譜卷九



五十

長谷雄雙紙
摹本在博物館

增補考古書譜卷九



增補

縁起、可爲左近將監行長所畫
貫雄曰、柳營御物一卷、飛驒守惟久筆、住吉廣行
所鑿定也、今世所傳本者、粟田口蝶齋所寫云
補真賴曰、長谷雄草子住吉家傳、フル所ハ、飛
驒守惟久筆とハ、但倭錦ハ、此の草子ハ
見込也

補又曰、博物館摹本卷尾云、右紀長谷雄卿之一
卷、應何某朝臣之需、模寫焉、原本有故、外人不易
窺、故不能、歷他方之審定、然竊爲飛驒守惟久之
筆、而可者乎、文化丙寅冬、粟田口直隆誌之印と
見込也

博戲圖 一卷

豫樂院相國基熙書畫一手戲作

卷尾記云、元祿十六年正月、中旬、花押、依所望、與藏
人式部丞賴庸
紙本、淡彩、僧俗うちまじりて、博奕をなす圖あり、
その洒落いふべからず、小卷なり、長井十足藏
補は、いふ物語

補本朝畫圖品目追加云、は、い、棚物語一卷
補摹本真書云、此畫卷者、或人之所珍藏也、傳而謂
春日左近將監行盛所畫、行盛者、長隆之兄、光秀之
八世之孫也、今及傳寫數轉、元本之筆意失之歟、猶
存之歟、不可知、雖然、詞頗妙、而畫體又珍、尤可珍愛
歟、詞者、元本一行十四五字、今令約小之寫
補真賴曰、今傳ハれる、摸本を見るに、その畫え
あつど、近き世のさまなるものあり、轉寫ハ

目録

たひひてかく今やうふいなまるもの歟

補 鉢かつき物語

補 燕石雜誌卷四云鉢かつき物語

馬盤繪 一卷

好古小録云住吉家所傳ハ貞享五年八月ノ幕木

ナリ後附藥草圖一二據ルベキ事アリ

倭錦云土佐隆兼馬醫之圖詞

山崎知雄曰予所見の模本藥草船裏以下佛座

子至至て十七種の藥草圖ありて圓融院の天

祿元年庚午七月八日とあり又次は真片假字

の跋文ありて七郎兵衛尉忠泰相傳之文永三

年丁卯正月廿六日甲寅西阿花押あり

補 真賴曰馬醫繪ハうまゝの繪ともいへばり

ノ部ハも掲げり

馬場騎圖 一卷

法眼具慶筆

貫雄曰馬の足なま毛色等を細くふふきと

す蓋常憲公の台命よりして所作といふ詞書

なり

羽形圖 羽鏡 一卷

箭羽圖也與書云天文九年三月日小笠原民部大

輔長棟兩本見合寫之了安永五年丙申九月十二

日伊勢平藏貞丈

補 蠻繪の様

補 人車記云仁安三年七月四日繪佛師法橋賴源

畫御調度蠻繪之様以代々本様加今案議定也繪

增補古書譜卷九

師能登權守宗茂畫師子形繪樣。又副御調度樣。可畫進之由下知。

補同

補同書云。仁安三年七月四日。繪師能登權守宗茂畫師子形繪樣。又副御調度樣。上春村按恐繪字脫。可畫進云云。

壑田圖

好古小錄云。天平七年讚岐天平勝寶八年攝津天平寶字三年越中田圖古ノ壑田ノ制可見。

波龍琵琶

撥面以金泥畫波龍。槽紫檀。後陽成帝所賜。花園家傳來。

鳩之間畫

倭錦云。住吉如慶都妙法院宮鳩ノ間。

葉室山谷堂圖

國朝書目載之

補馬具圖 一卷

補所藏者不詳

補濱名橋圖 一幅

補所藏者不詳。幕本博物館小あり。

補真賴曰。濱名橋の昔を想像をべきものあり。博物館藏。摸本卷尾。濱名橋の考證を附せり。

花園帝宸影 一幀

園大曆云。觀應元年七月廿一日。梅津長老皎首座入來。謁之花園院御信敬僧也。彼御影在梅津云云。可參拜之旨約了。同九月十一日。抑今日。花園院。

增補古書譜卷九

御月忌也。彼御影梅津大梅山道能和尚預置云云。去月欲參之處不遂。本意仍今日參拜也。狩衣直衣八葉車懸下簾下部等直垂也。光熙朝臣仲康紀定景等在共。又前大納言春宮大夫同車也。又守賢朝臣同令乘車後也。先於客殿聊言談之後參御影堂燒香和尚褰帳臺帷宛如拜。現在龍顏哀哉。此御影者御存在之間御眼鼻以下不違十分忠季卿奉寫之。即御自身開眼御等身香御衣御袈裟御指貫也。本朝畫史云僧豪信能畫為山法印。藤信實六世孫也。或曰所在洛西梅津長福寺花園院宸影者。豪信奉命所寫也。

倭錦云僧豪信花園院御影。京梅津長福寺什物春村曰此宸相。豪信法印の筆にあらば忠季卿

躬行曰以豪信法印
為信實六世孫者誤
藤原隆信
信實
為繼
伊信
為信
豪信

奉畫所也。こハ正親町權大納言忠季卿ふて貞治五年二月廿三日四十五歳小て薨ざ一人を

秦川勝像 一幀

筆者姓名不傳。攝州四天王寺藏。有彩色。

補集古十種部像秦川勝像藏未詳。

補真賴曰博物館不藏る摸本秦川勝の像即

是なり。畫上に贊字あり。摸本不記して云々。

奈良人井上平五郎藏。安政七年六月四天王寺

小奉納スと見込り。

同 一幀

仁和寺寬隆法親王畫。山城廣隆寺藏。

補類聚古畫目錄云。秦川勝像。山城國廣隆寺藏。

增補... 卷九

補 八祖像

八幅

補 寺社寶物展覧目錄卷三云、三輪平等寺藏八祖像八幅、内七幅、八東寺什物ノ寫、弘法大師ハ真如親王ノ筆ト云フ

補 同 八幅

補 東寺寶翰古器目錄云、真如親王御筆八祖影像贊八幅

比部

補 蛭子御影

補 倭錦云、土佐光輔、蛭子

補 日吉十二社御正體

補 明月記云、建久十年八月四日八條院日吉御經供養の條御

佛一鋪十二社御正體繪經或摸寫或書寫之内地藏陀

羅尼經御筆云云

補 真頼曰、御筆トハ八條院のかきせ給へるを

いふなり

毘沙門天像 一幀

倭錦云、秦川勝筆、毘沙門天大幅、法隆寺什物

補 同

補 養和二年記云、養和二年三月三日、今夜戌刻許

留補考古書譜卷九

大輔殿御方毘沙門講如例被行其次第等身繪像
毘沙門同被供養了導師淡路公忠法眼頼源奉畫
天王也願文云為福壽成就天下飢饉除拂也云云

補同

補東鑑卷十四云建久五年八月三日辛卯於營中
被供養畫像毘沙門天導師法橋行慧

補同

補古今著聞集卷二云少將の聖も大原山の住人
あり三十年常行三昧を行ぜられける間も毘
沙門天王かたちをあらわして上人を守護し給
ひけり御影像を束身小圖繪していま小勝林院
小安置せらるるなり此上人臨終の時ハ勝林
院小常行三昧たこなひける時西方より紫雲け

んして堂の内へ入と見るほど小肉身ながら見
へむ即身成佛の人小や往生傳ハハかく

補同

補倭錦云巨勢金岡毘沙門天

補同

補同書云宅磨勝賀毘沙門天

補同

補博物館藏毘沙門天像絹本彩色

補鑑定書云豎幅毘沙門天王圖致一覽候所雪舟

真筆無疑者也戊子十月四日晴川法眼養信花押

補真頼曰毘沙門天王立像なり後へ小二夜又

あは、寶塔を捧げもて

補同吉祥天童子像

補倭錦云土佐光弘毘沙門天吉祥天童子

補平河天神縁起 四卷

補圖畫一覽下卷云平河天神縁起四卷

人麻呂縁起

繪光芳詞有敬卿外題豐忠公

跋文云右和州葛城下郡柿本村影現寺縁起此一

軸也近頃依大徹和尚之索文詞千種宰相中將有

敬卿畫大藏少輔藤原光芳外題廣幡前内府豐忠

公筆訖遂以為全備焉各真跡不可貽疑惑將千歲

之寺寶歟享保第十四春上浣權中納言重家

躬行曰享保八年二月十八日石見國高角社へ

正一位神階宣下の事あは、よりて此等の縁起
もいできけんぞねもてる、但人丸神龜元
年三月十八日卒す本年即一千年の忌辰不當
まるといふ然まども人丸在世淺官ふして事
業も國典小洩されば其卒年もさだうならぬ
ふやこゝびの宣命ふ八年忌の事ハ載られざ
るき

補毘沙門縁起

補古畫目錄云毘沙門縁起繪光信筆山城國鞍馬

寺藏或云在法隆寺

補古畫類聚目錄云毘沙門縁起鞍馬寺藏光信筆

補真頼曰毘沙門縁起ハ鞍馬寺縁起ふてこれ

ハ其異本なるべし鞍馬寺縁起ハ土佐經隆の

補遺 下書言

ゑがける一幅、狩野元信のゑがける三卷のものあり、くノ部見合をべし

日張山青蓮寺縁起 一卷

畫法橋雪俊書安井僧正道恕寺在大和國宇陀郡

奧書云延寶九年八月上浣之吉上柱國定押署

日高川雙紙 一卷

畫廣周詞筆者未詳

補倭錦云土佐廣周紀州道成寺縁起

卷後云右道成寺之繪一卷者土佐彈正忠廣周真

筆無疑候仍加愚筆證焉而已延寶五年仲夏上旬

土佐將監光起

春村曰此事ハ舊本今昔物語集小あてて安珍の名ハ元亨釋書小みゆ按小此物語の僧を賢

今昔物語集卷第十
四紀伊國道成寺僧
寫法花救蛇語とあ
りて則此物語を記
せり文章小異あれ
ども大旨異あるこ
とあり僧の名ハ載
せば元亨釋書卷十
九靈怪部ハ釋安珍
居鞍馬寺與比丘請

熊野至牟婁郡宿村
舍舎主尊婦也云々
このせて是も又本
卷と其趣異あらば

學ともいへど故小賢學雙紙の名あり

補同 一卷

補圖畫一覽下卷云日高川畫詞一卷畫者不詳精

密の畫なり詞書尊純親王江戸淺草地内西村藐

庵所藏天地七寸五分許ノ卷物ナリ清水寺ノ賢

學ト云僧ニ十六ナル姫君思初メテ終ニ蛇體ト

ナリテ賢學ヲトリ殺ス圖ナリ道成寺同物歟

補真頼曰摹本博物館小あて卷尾云右道成寺

之繪一卷者土佐彈正廣周真筆無疑候仍加愚

毫證焉而已延寶五年仲夏上旬土佐將監光起

印と見込り此の卷女の賢學をこて殺して

日高川の淵小いことをかけり安珍のこ

と、いやよく似たりをまは日高川の雙紙と

曾補考古書並書卷九

北村考古書譜卷九

もいふなるべし。但はしめのかゝ缺り

補同 二卷

補交詢社藏書畫筆者竝し詳ならず

補上巻巻尾云。應永七年庚辰二月日。於土生庄藤

井村書寫

補下巻巻尾云。應永七年庚辰二月日。於紀州名草

郡日方村書寫畢

補副書云。日高川繪詞二本アリ。姫路酒井家ニ藏

スル巻世間ニ名高ク摸本モ多ク行ハル。初メニ

ハ筆者モ定カナラヌヲ光起ノ廣周ナリト定メ

置ケリ。詞書ハ筆者ヲ知ラス。又別ニ一本アリ。姫

路家ノ畫巻トハ更ニ異ニシテ。文段畫様モ皆別

ナリ。此摸本衆名侯所藏ニアリ。其畫古拙ニシテ。

奥ニ應永七年紀州ニテ寫セル由アリ。廣周ヨリ
ハ四十年餘古シ。且本文ノ書體ヲ熟覽スルニ。淨
辨ノ書ニ甚似タリ。淨辨ハ後醍醐帝ノ頃ニテ。頓
阿兼好ト並ヒ稱セラレタル歌人ナリ。原本ハ其
筆ニテモアラシク歟。應永ノ奥書ニ書寫ト有テ以
テシカ思ハル。サレバ其モトノ巻ハ。道成寺等ニ
コソ有ヘキナレト。先年東都へ開帳ニ出タル時。
繪詞モアリケレトモ。姫路家ノ摸本ニ似テ圖ヲ
大ニセシ趣ナレバ。別ニ古キ此繪詞有シヤト尋
サセケレトモ。外ニハ無キヨシ也。又或畫家廣周
ノ畫巻ヲ見テ。廣周ヨリハ後ノ畫ト思ハル。由
ソノ畫中ニサカヤキ割タル人物コ、彼コニ有
シトナリ。摸本ヲ見シ。アレハ心ヅカザリシニ。

備前考古書譜卷九

北神古畫譜卷九

カ、ル説ヲ聞ヌレバ、日頃詞書ノ體廣周時代ヨ
リ後ノ様ニモ思ケルニ符合ス、サリトテ珍賞ヲ
失フ道理ニモアラス。二本トモニ世ニメヅラシ
ケレバ、何レモ寶玩スヘシ。惜哉應永ノ巻初段ヲ
失却セリ。是ニカキラス古畫ノ巻物信貴山縁起
ノ類ナト脱落多シ。全カラネト古シヘテ考フル
ノ益少ナカラスト謂ヘシ

彦火々出見尊繪詞 三卷
ハ、こゝ、み掲載す

類聚目錄云、繪越前守光長
倭錦云、春光長彦火々出見草子、詞雅經卿

補古畫目錄云、彦火々出見尊一卷、越前守光長住

吉家繪本

躬行曰、飛鳥井雅經卿、畫師光長、年歴不遇の事
ハ、年中行事繪の處、ふいへり

補真頼曰、彦火々出見尊三卷、摹本博物館ふあ
り、巻尾に豐玉姫尊御産の所あり、畫様後世の

體なり
同 二卷

看聞御記 嘉吉元年二月二十六日云、彦火々出見尊繪二卷、金
岡筆

百鬼夜行圖 一卷
土佐權守經隆筆 近衛家所藏

補本朝畫圖品目云、一種ノ百鬼夜行近衛家ニア
リ、至テ筆ボノノ者ナリ、經隆ノ畫ナリ

繪本古畫譜卷九



彦火々出見尊繪詞
草本在博物館

北補古畫譜卷九

畫後云。正和五年六月一日。以内藏寮本三日之間寫之了。從五位下藤原經隆

躬行曰。經隆ハ中務少輔隆親男ふして。顯文抄ふ承安中の人とせり。此奥書の正和より。承安ふ遡るふ。まさふ百四十年。甚疑ふべし。然るふ於陽明家柏木政矩原本を展看し。此奥書直ふ謄寫し來る處。于時明治五年壬申五月なり。
同
補真頼曰。百鬼夜行一卷。摹本博物館ふあり。一卷

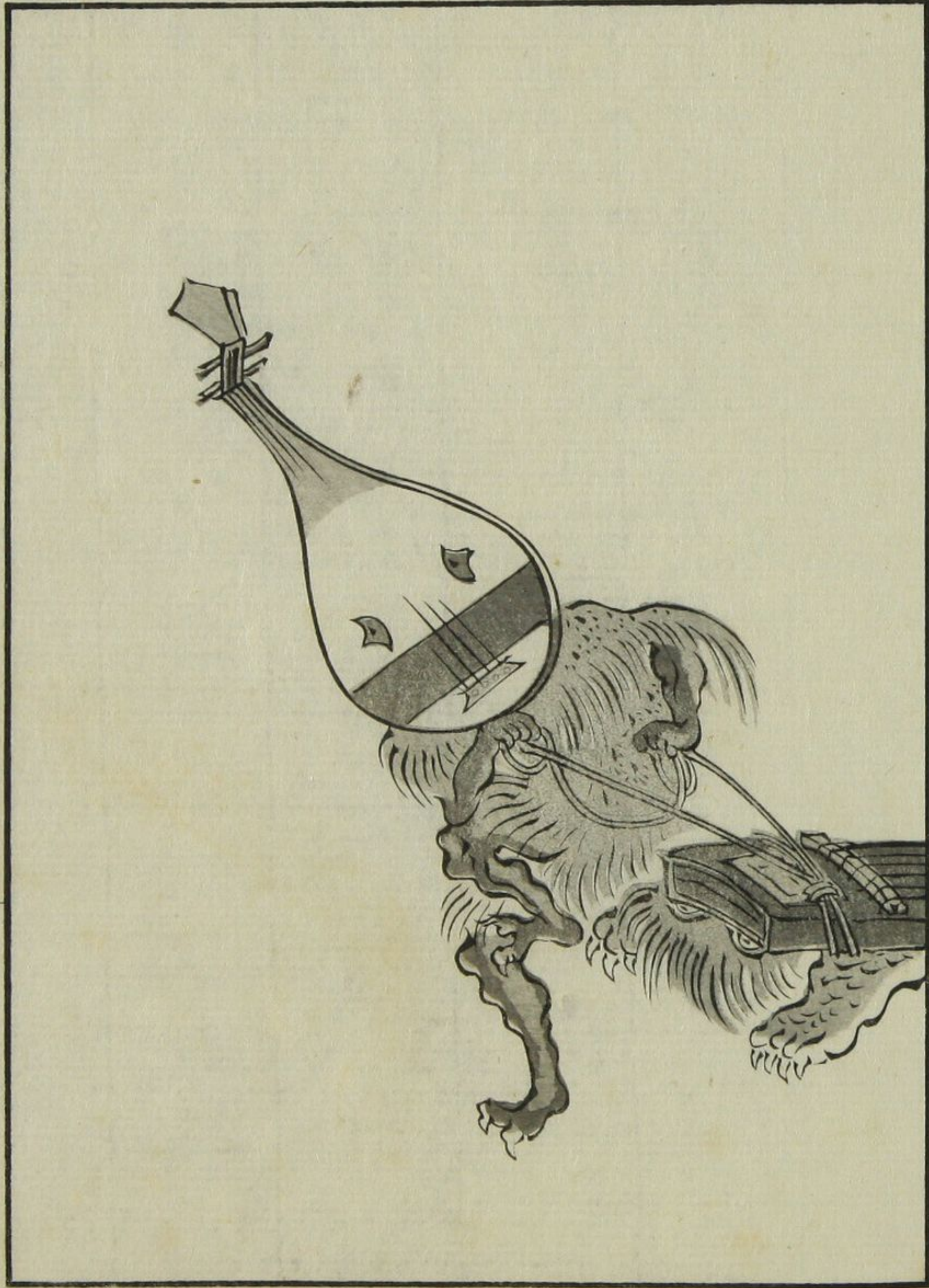
好古小録云。一卷畫光重
補本朝畫圖品目云。百鬼夜行一卷畫光重
補圖畫一覽下卷云。畫圖品類云。按ふ明德頃の古畫なり。畫工不詳

貫雄曰。幕府御物光重筆なり。安政五年冬十月。住吉弘貫。台命ふよりて。摹寫せり。可惜殘缺なり。
補元幹曰。此餘百鬼夜行圖あり。後人ノ作ニテ取ニ足ラズ

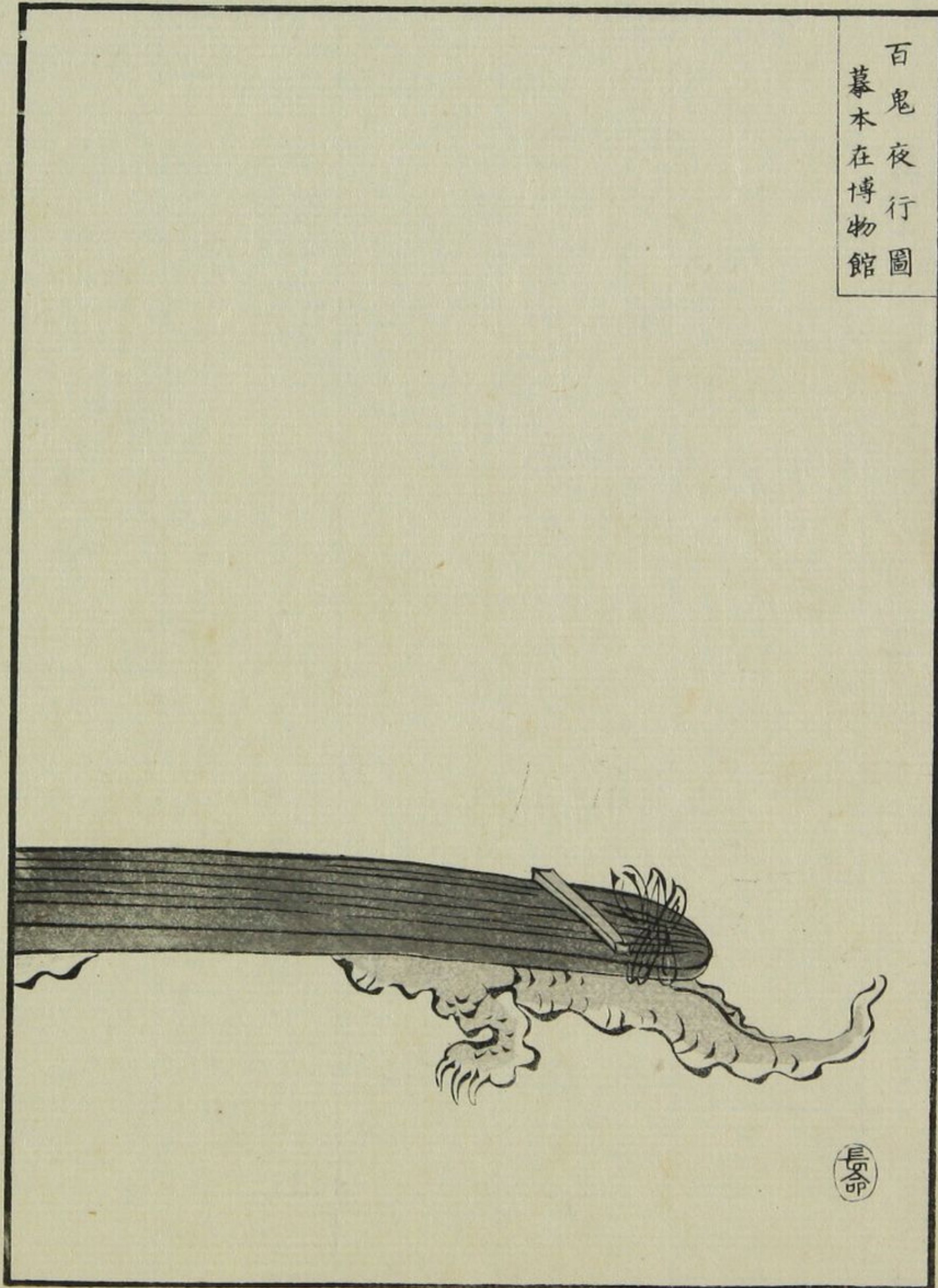
同殘缺
倭錦云。土佐吉光百鬼圖卷殘缺
同
一卷

土佐系圖云。大藏少輔行秀。畫百鬼夜行
補倭錦云。土佐行秀百鬼夜行
補同
補圖畫一覽下卷云。國朝書目云。百鬼夜行圖一卷
光吉

御目有古畫譜卷九



百鬼夜行圖
摹本在博物館



長命

補同
古畫目錄云百鬼夜行圖光信筆京都十念寺藏

補同

補古畫目錄云百鬼夜行圖光信筆京都十念寺藏

宗淨土

補同異本

補所藏者不詳

補真頼曰摸本博物館小あり卷尾云右之妖化物之繪古圖寫者也元和三年五月廿一日住吉

内記とあり畫様ハ鳥獸蟲類等の妖怪の圖小

て缺本なり

同新圖

一卷

補倭錦云土佐光起新圖百鬼卷物

補左右小袖濕す物語繪

補明月記云貞永二年三月廿日云云日來撰出物

語月次五十二月不入源氏并袂衣於歌ハ披群他事

又院御方別被書此所撰夜寢覺御津濱松心高

東宮宣旨左右袖濕

比叡山王行幸記 二卷

書畫筆者未詳或云畫已逸但群書

同靈驗記 一卷

類聚目錄云前兵部少輔入道寂濟筆

倭錦云寂濟山王靈驗記詞徹書記正般正廣堯孝

春村曰比叡山王利生記といへるものあり叡

山無動寺の藏不して塙忠實真寫の本をもて

書畫筆者不知といふ是山王靈驗記と同品

小や

同録起 一幀

函開補考古畫並書卷九

補 古今著聞集卷十一云 平等院寶藏の四季の御

畫工姓名不傳 綠起繪曼陀羅也 在于本 社絹本

同猿傳記 畫圖品目載之

平茸雙紙繪 一卷

類聚目錄載之

躬行按小 宇治拾遺物語卷一 不淨沙汰を
法師平茵よ生るとて 丹波國篠村といふ所
ひらよけたほくおふるよしの物語あり さま
らの事をかけるものなるべし

補 非情草木成佛 二卷

補 本朝畫圖品目云 非情草木成佛二卷 畫鳥羽覺

融詞醍醐成賢

補 圖畫一覽下卷云 畫覺融僧正 書僧成賢

補 真頼曰 非情草木成佛ハ付藻神記おたなし
つノ部見合をべし

補 平等院四季屏風

補 古今著聞集卷十一云 平等院寶藏の四季の御
屏風を二條關白殿長者みてわたくましける小
申されて取出てうつさきおけり 人々の姿も
みな昔繪みてぞ侍るなるいと見所あり 武徳殿
の競馬の所お見もおらぬ人のをぶさ共たほか
で 嵯峨野の御幸お 御輿の上お虎の皮をねほひ
たるなどふるき事共をかきさるいと興あり
承保の野行幸おハ 虎の皮をハたほされさけ
るとなん

補 弘高の屏風の繪

補 古今著聞集卷十一

古言言卷九

補 榮花物語卷八のつ花云。こまハひろたろハか
きさる屏風どもハ侍從中納言のかき給へるハ
こそハあめれ云云

補 真頼曰。侍從中納言ハ行成卿なり

比 叡山王廿一社圖 一鋪

國朝書目載之

倭錦云。土佐廣周山王廿一社圖。東叡山有之

躬行曰。山王ハ元來延喜神名式ハ近江國滋賀
郡日吉神社一座と載られたる御社なるを最
澄歸朝のち日叡の山ハ延曆寺を創め天台
山の山王ハ倣ひて日吉大神を山王とあら
めまをく山王七社などいふ事どもを附會し
次々えもいてぬ名どもつきて中七社下七社

とて終ハ廿一社とも成ふさるなり。虚誕証
妄ハ僧家の常なれど是ハ餘リハ心まらるせ
たる志れりさふていきどほろくさへなむ

百恠圖

玉海 安元三年六月云。余冠鼠咋之。昨日戌刻見付之。
仍卜筮申慎之由。甲乙日云々。件事昨夜問泰茂。百

恠圖之中有所見云々

備 中國政所屋圖

展 閱目錄云。東寺所傳

補 日御崎寶物圖 四卷

補 出雲國日御崎神社寶物摹本博物館ハあり

補 真頼曰。寶物圖二卷。古文書二卷。もべて四卷

なり

百目補考古言言卷九

補 秀吉公陣羽織圖 一卷

補 摹本博物館不あり

補 真頼曰此陣羽織ハ小札を綴合せたるものなりもと加藤清正の家不ありけるを今ハ蜂須賀家不傳來と摸本巻尾不見迄り

補 平等院鳳凰堂扉及壁繪

補 圖畫一覽下巻云品目云平等院鳳凰堂扉繪畫為業

補 古今著聞集巻六云為成一日がりち不宇治殿の扉の繪をかきたりけるを宇治殿仰らるけるハ弘高ハ繪様を書て一夜なほよくあんトてこそ書た不いふかく卒爾不ハかくぞとなん仰られける

補 倭錦云宅磨為成平等院鳳凰堂壁并扉繪題號

俊房卿

補 道の幸院平等云鳳凰堂ハ宇治どの御願不て

扉の繪ハ為業色紙かハ堀川左府なり入木道不てハ御願所のとびらとて大切なる色紙形なれとも近頃修復して繪もあらぬものとなり文字も非能書の手してうつしぬまばとごろのゆらしきもりせぬさきと字のさま點の姿などさすぢ不もとのまを寫せしとみゆる所もあまばあまはうつしつべし

補 廂饗圖 一卷

補 圖畫一覽下巻云國朝書目云廂饗圖一卷

補 廂調度圖式 二卷

補 廂調度圖式 二卷

古法眼永祿二年十月六日辛八十四

肥前國七郎宮寶刀圖

補同書云庇調度圖式二卷品目云元祿十七年四月十一日兵部卿文仁親王跋アリ本朝畫圖品目亦これ不同

補肥前國七郎宮寶刀圖 一卷

百布袋圖

書畫年契云弘治二年法眼元信畫之附與其門人自是而後謝絕揮筆云

補廣通繪本

補類聚古畫目錄云廣通繪本

補人のみづら身を焼く繪

補大和物語云五條のごといふ人ありけりをとこのもとみまがしを繪ふかきてけぶをい

とれほくくゆらせてかくなんかきたりける君をおもひなまゝし身をやく時ハけぶりたほろるものおそあはける

人麻呂像 一幀

十訓抄四卷云粟田讚岐守兼房といふ人ありけりど一頃和歌を好まけきと宜き歌もよみ出さばまけきバ心よ常小人まろを念じけるおあるよのゆめお西さるもとおほゆる所お木ハなくて梅花ばあり雪のごとく散ていみおるかむしりけるおこるおめでたしとたもふほどみかゝらふ年たうき人あり直衣お薄色のさしぬき紅の下はかまをきてな近する烏帽子を志てえほりのありいとたあくて常の人おも

古法眼永祿二年十月六日辛八十四

似ざりけり。左の手紙をもち右の手紙筆をそ
めて、ものを案ずるけしきなり。あやしくて誰人
おろとねもふほどお。此人いふやう。どごろ人
まろを心おかけ給へる。其心ざしふかきおより。
形をみせ奉るとはありいひて。かきけち失ぬ。夢
さめて後朝お繪師をよひて。此様をかして書
せけまど似ざりけれ。たびくかして。にり
けるを寶おして常おをのみけま。その志るし
おや有けむ。さきくよ。おもよろしき歌よまれ
けり。年頃あて死なむと志ける時。白河院お進
らせたりけま。ことおよろこむせ給ひて。御寶
のうちお加へて。鳥羽の寶藏おをさめられおけ
り。六條修理大夫顯季卿。さまくおをびくま

をして、信茂を語りひて。書寫してゆされたりけ
り。敦光お讚はくらせく。神祇伯顯仲に清書させ
て。本尊として。始めて影供せらまける時お。むこ
たちれほけまども。其道の人なまべとて。俊頼朝
臣の陪膳おせられける。さて年頃影供怠らざり
けり
古今著聞集五卷云。彼清輔朝臣の傳へたる。人丸の
影。讚岐守兼房朝臣。ふらく和歌此を好む
て。人まろの容を去らざる事を悲しむけり。夢お
ひとまろ來て。これをこふる故お形を顯せせ
る。ふしをたげり。兼房畫圖にたへむ。後朝お畫
師をよめて。をへて書せけるお。夢お見しお。た
る。おぞ。おま。悦びて其影をおあかめて持たり

増補古今書譜卷九

けるを、白河院此之ち御好之あてく、かの影をわ
して勝光明院の寶藏ふをさめらまにけり。修理
大夫顯季卿近習みて、所望しけれども御赦しな
るをけるを、あおおちに申て、使ひ小寫しとてつ
顯季卿一男中納言長實卿二男參議家保卿此道
みたへむとて、三男左京大夫顯輔卿小讓とけり。
兼房朝臣の正本は、小野皇太后申うけて御覽ト
けるほどに焼おたり貫之が自筆の古今も其時
同トくやけおちり、口をしき事也。されば顯季卿
本、正本おなまにけるも、おそ實子ありとも此道
みたへざらむもの、おの傳ふべからば、寫しもを
べらるをと起請文あまると、や件、本保季卿傳へ
とて、成實卿お授られおけり。今、院おめしれ

神本朝臣人曆書讚
并序大夫姓抄本名
人曆、蓋上世之歌人
也、住持統文武之聖
明、過新田高市之皇
子、言野山之春風、從
仙駕而獻壽、明石浦
之秋露、思扁舟而瀝

あまて、建長のおろより、影供など侍るおこそ、供
具の家衡卿子經宗のものとに傳えりたりけるを、家
清卿はとへとて、失てのち、其子息此許おあり
けるも、同院おめしれおけり。長柄のえりの
橋柱おて作りたる文臺、俊惠法師お許より傳
えりて、後鳥羽院の御時、御會などおとて、出さ
れおけり。一院御會にかの影のまへみて、其文臺
よて和歌の披講せられける、いと興ある事なり
同書五卷云、元永元年六月十日、修理大夫顯季卿、六
條東洞院亭おて、抄本、大夫、人丸、供を行ひけり。件、
人丸、影兼房朝臣夢本あたらしく圖繪せらなり。左手に
紙をとり、右手に筆を握りて、年六旬むありの人
なり。其上に讚をかく右、兵衛佐顯仲朝臣、清書し

増補古今書譜卷九

詞賦是六義之秀逸
 万代之美談者歟方
 今志重幽玄之古篇
 聊傳後素之新採因
 有所感乃作讚焉其
 辭曰
 和歌之仙靈性于天
 其才之奇其鋒森然
 三十一字詞花露鮮
 四百餘歲來葉風傳
 斯道宗匠我朝先賢
 涅而無繼續之彌堅
 鳳毛少彙麟角猶專
 既謂獨步誰敢比肩
 元永元年六月日大
 學頭藤敦光作續文

北朝書畫記卷九

けり
 本朝畫史云元永元年六月十日修理大夫顯季卿
 於六條東洞院被修人丸影供其像令兼房新圖之
 大學頭敦光加讚此圖樣并贊詞令行于世
 補畫工便覽卷二云藤顯季正三位號六條魚名四
 世正四位隆經男臻畫圖元永元年夏六月修理大
 夫顯季斯畫人磨小影一幅長三尺許著烏帽子直
 衣左採紙右握筆年可六十餘令大學頭藤原敦光
 作贊云云
 補真賴曰畫工便覽小顯季卿の筆とせろへ誤
 ちと顯季卿の畫工信茂ふあつらへくかし
 めたるなり
 躬行按ふ兼房朝臣夢本畫工姓名不傳顯季卿

の摹本へ信茂に寫さしむと十訓抄みと
 きど何人あるを去らむさるを畫史ふ兼房
 に新圖さしむと記し畫工便覽ふ顯季卿新
 圖人麻呂小形一幅云云と識しむともふ
 こと誤なりさて此贊辭の筆者十訓抄ふ
 神祇伯顯仲とし著聞集ふ右兵衛佐顯仲朝
 臣とせりおいつれなしうらむと
 を僧慈延が堀川百首抄ふ顯仲從四位下右兵
 衛佐中納言藤資仲男神祇伯顯仲と同名異人
 同時の人也伯顯仲の六條右府顯房公の男な
 りと記さむと源顯仲の保安三年伯ふ任を顯
 房公に猶子となし安藝權守顯康ふて別
 人なり其贊辭の朝野群載卷一續本朝文粹卷

北朝書畫記卷九

十一等ふみゑと

補同

補十訓抄卷四云。人丸影云云。白河院云云。鳥羽の
寶藏ふをさめられけり。六條修理大夫顯季卿
さまぐいふとびくまりて。信茂をかとりひ
書寫してもたれけり云云

補真頼曰。六條修理大夫顯季卿の秘藏せられ
し人丸の影。信茂にかしめたるあること
十訓抄此文みてあきらけし。其全文の上件ふ
か、げとり就て見るべし

同 一幀

補兼載雜談云。人丸影ふ信實岩屋とて。兩流有。岩
屋へ行尊の夢なり。とら此皮を去くなり。信實の

粟田の關白のまこあきふさの夢み見給ひ
を信實よか、せ給ふ。信實此夢ふありき

補畫工便覽卷二云。三井行尊天台座主。小一條院

御孫。基平御子。長和歌好畫圖。夢柿本人丸。其形妝

設衣冠。凭于脇足。詠唸體也。後朝自筆圖之。甚有生

意。人丸像以是為始。號行尊流。世々畫家為粉本。

名畫拾彙云。行尊僧正小一條皇孫基平卿男天台

月五日化好畫圖。夢柿本人丸。麻呂衣冠。凭几詠唸。後

朝自寫圖之。甚有生意。畫人丸以是為始。後來畫家

同 一幀

倭錦云。隆信兼房夢中影。人丸自讚堂上家藏

貫雄曰。兼房朝臣夢本。贊詞筆者未詳。大幅中院

家相傳

同

一幀

補同書云信實人丸色紙并手持料紙和歌為家卿
補古畫類聚目錄云柿本人丸像信實筆色紙形歌
冷泉為家卿筆

補本朝畫圖品目追加云人丸像信實畫讚為家小
川町杉浦家ニアリ元古筆了伴所賣

本朝畫史云信實畫人丸像今人得之為珍凡人丸
像世傳者居多但以髭髻黑稍多為徵也

補真賴曰此の像いもと杉浦左衛門尉所藏な
るき今い町田久成の所藏とあり

同

一幀

倭錦云僧豪信人丸色紙有

同

同書云春日行長人丸影讚色紙世尊寺殿

同

補倭錦云土佐吉光隆信圖人丸贊定成卿

躬行曰此像兼房朝臣夢の本、色紙形敦光朝臣
の贊詞也。但十訓抄ハ梅花雪のこく散た
るよーみまゝに。此畫ハさくらをなちりま
がひより絹本大幅長井十足藏弄

補真賴曰此の畫原本模本とみに今博物館ハ
あり。畫上ハ置色紙五枚あり。此の繪を狩野探
幽ハ信實とあり。志あれども住吉家ハ於てハ
吉光とせり。文久元年七月の住吉廣貫の鑑定
書ハも吉光とせり

補同

補 畫工便覽卷三云。信實左京大夫隆信男。善書畫。夢人磨其體。著束帶。向于硯。持筆。信實覺手身畫。夢像亦是名信實流。行尊以二流。後世人丸像為粉。

補 真賴曰。畫工便覽。小束帶とある。いはいぶ可し。

補同

補 同書云。信尹者。尹信弟子。傳家畫。筆力風格亦可也。圖人丸像。

補同

補 同書卷四云。近衛前關白前久。號龍山。善手跡。及今好丹青。常圖人丸像。詠和歌。

補同

補 同書云。近衛關白信基。號三藐院。達書畫。人丸及

補同

花鳥人物圖繪。甚有清爽活動。

補 東大寺寶物目錄云。人丸神像一幅。土佐經隆筆。實慶運律師。

補同

補 集古十種部肖像云。梯本人丸像。山城國寂光寺藏。

補 古畫類聚目錄云。梯本人磨像。平安寂光寺藏。

補同

補 真賴曰。立像なり。右手に筆をもちたり。

補 同書云。梯本人磨像。伊勢國松坂某寺藏。

補 古畫類聚目錄云。梯本人磨像。伊勢國松坂某寺藏。

補 真賴曰。坐像なり。脇卓小かゝりて。右手に筆

地補考古書言考

をよてと歌を按ざる體あり

補同

補同書云柿本人麿像阿州家藏

補真頼曰坐像あり直衣奴袴を著し右手に筆をよてり歌を按ざる體なり

補同

補同書云柿本人麿像藏未詳

補真頼曰坐像あり直衣奴袴を著し右手に筆をもち左手に懷紙をよてり懷紙は梅の花をよとも見ゆ久方の天きる雪比なへてふれハバといへる歌をかきとり

補同

補同書云柿本人麿像日野家藏

補真頼曰坐像なり右手小筆をもち左手に懷紙をよてり

補同

補後陽成院御宸筆壬生官務藏極彩色坐像小て

疊紙をよてり

補同

補倭錦云後鳥羽院人丸文字入

補同

補同書云上佐永春人丸贊應山公

補同

補同書云上佐廣周人丸影

補同

補同書云宅磨榮賀人丸贊有

通補考古書言考

補同

補同書云土佐光信人丸贊為廣卿

補同

補同書云土佐光則人丸贊宗鑑

補同

補本朝畫圖品目云抄本人磨像畫信實柳生家藏

補同

補繪信實所藏者不詳絹本なり摹本博物館ふあり

を

補真賴曰坐像ふて右手に筆を持左手に料紙

ををてり傍に梅樹あり

補同

補繪信實所藏者不詳摹本博物館ふあり

補真賴曰坐像ふて手に筆と料紙とをもちてり

畫上小明石の浦の風景を畫りけり又置色紙

あり梅の花それとも見込を云云ほのくくと

明石の浦に云云の二首の歌を書けり筆者後

京極殿と見ゆるに此なり

補同

一幀

補野本孫之丞藏畫工不詳摹本博物館ふあり

補真賴曰虎皮の上小坐せる像ふて右手に扇

をもちてり畫上に置色紙あり梅の花云々ほの

ほのと云々此歌を記せり筆者不詳又畫上に

一首の歌ありまのまにをあらわすをかして諸

人の歌此なさけいあらわす小けり

補了悦曰このまに云々の歌に後人の書を

へあるべし。恐らくハ徹書記あらん

補同 一幀

補所藏者不詳。畫工不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。梅花の下よて歌を按える體あり。豹の皮を敷物とせり

補同 一幀

補所藏者不詳。畫工不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。梅花の下に歌を按える體なり。衣服漢様ふて。椅子北上坐せり

補同 一幀

補所藏者不詳。畫工不詳。摹本博物館あり

補真頼曰。坐像ふて手に料紙と筆とをもてり。畫上に置色紙あり。梅の花云々ほのく云々

の歌をかけた。筆者不詳

補同 一幀

補繪信實。絹本。日光山教城院藏。摹本博物館あり

補真頼曰。坐像ふて手に筆と料紙とをもてり。畫上置色紙あり。ほのく云々梅の花云々

の歌をあけり。畫下に明石の浦の風景を畫り

人麻呂管公孔子三影 一幀

倭錦云。土佐邦隆。人丸管神孔子三影。題號經朝卿。躬行曰。邦隆ハ分脈小繪所預。隆能孫。隆親の男。ふして。經隆弟也。安元項の人と云べし。從三位。經朝卿ハ。建治二年二月二日六十二歳薨。どら

増補考古書譜卷乙

る。邦隆の年歴少し後たるべし。倭錦の
邦隆を隆親の曾孫。經隆の男。文永中此人とし
たる例の附會ならむ

百人一首像 二卷

刑部大輔光信筆

補圖畫一覽下卷云。百人一首作者像。畫者光信ト

云々未目撃

同新圖 二卷

倭錦云。住吉如慶依。後水尾院勅。百人一首三十六

歌仙三通服色模様中院通村卿撰。即右下畫ニ同

卿加筆。冷泉為久卿下畫ニ加與書

補秀吉公像 一幀

補狩野晴川院藏。畫狩野永徳紙本。文政十二年三

月廿一日焼失。幕本博物館にあり

補真頼曰。頭巾を被り手なしを著し。大小二刀

を挿し。坐像なり。畫上小花の祢ふひとといへ

ることを詠める歌二首あり。自筆なり

補同

補集古十種 肖像 豐臣秀吉公像。山城國東山高臺

寺藏

補真頼曰。坐像なり。唐冠を被り。右手に檜扇を

もてり

補同

補同書云。豐臣秀吉公像。中村某藏。傳云。加藤清正

朝臣所畫

補真頼曰。坐像なり。唐冠を著し。右手に笏をもち

増補考古書譜卷乙

て

補同

補同書云、豊臣秀吉公像、高野山蓮花正院藏

補真頼曰、坐像、小て束帶帶劔、右手、小笏をもて

て

補同

補同書云、豊臣秀吉公像、尾張國中村常泉寺藏

補真頼曰、坐像、小て直衣、奴袴を著せり、右手に

檜扇をもてり

補同

一幅

補富田左近將監筆、伊達宗城藏

補真頼曰、坐像なり、富田左近將監ハ、知信なる

べ

增補考古畫譜卷九

增補考古畫譜卷九終

